

外国にルーツを持つ就学前の子どもと 保護者の子育て支援に関わる調査

報 告 書



浜松市

2018 年 2 月

【目次】

I	事業の概要	1
1.	これまでの経緯	1
2.	事業の目的	1
3.	事業の実施主体	1
4.	事業内容	2
II	事業の考察	2
III	事業報告	4
1.	「保育分野」についての調査	4
(1)	子どもの日本語の語彙調査	4
(2)	親の意識アンケート調査	11
(3)	外国人経営の認可外託児所等の聞き取り調査	37
(4)	先進事例「しんえい保育園」の聞き取り調査	40
(5)	浜松市内の小学校教員への聞き取り調査	44
(6)	他地域先進事例「れいんぼ一保育園」の聞き取り調査	46
(7)	その他関係機関・他地域事例の聞き取り調査	48
2.	外国人保護者向け子育て支援セミナーの開催	49
IV	参考資料	50
	○ 日本語の語彙調査リスト	
	○ 親の意識アンケート調査票	

I 事業の概要

1. これまでの経緯

浜松市において、次世代の在住外国人支援に関しては、義務教育年齢は浜松市教育委員会が中心に取り組み、その対象とならない不就学の子どもの支援に関しては浜松市国際課や当協会が取り組んでいる。さらに、2015年度からは義務教育年齢を超過した若者を対象とした日本語教室や「フィリピンにルーツを持つ若者の意識調査」などを当協会が行い、2016年度には「外国にルーツを持つ青少年のキャリア支援事業」として、青少年の実態調査やキャリア支援研修、関係者間のネットワーク会議等を行ってきた。

このようなこれまでの取り組みの中で、生まれてから小学校に上がる前の年齢の子どもについては、あまり対象とされてこなかった。しかし、日本生まれ・日本育ちの子どもたちが増えているにも関わらず不就学や日本の小学校での適応の課題がなくならないこともあり、子どもが生まれてから小学校へ就学する前までの状況について把握し、その支援策について考える必要性が高まっている。

2. 事業の目的

子どもが健やかに成長し、自己の能力を活かして社会の一員となるためには教育が重要である。外国籍の子どもは日本において義務教育ではないが、教育を受ける権利は全ての子どもにある。日本において外国籍の子どもが十分に教育を受ける機会を享受するためには、生まれた直後や生まれる前から、親に対して情報提供や支援が必要である。しかし、子どもが生まれてから小学校への就学前の期間はこれまで状況や課題についてほとんど把握されてこなかった。そこで、就学前の外国籍の子どもの置かれている状況にはどのような課題があり、支援が必要なのか把握するために調査を行う。そのためには、以下の3つの施策分野に分けて状況を把握することが望ましい。

①妊娠・出産期から母子の健康や子どもの発達を見守る「母子保健分野」

②保育所でのサービスを中心とする「保育分野」

③就学前の子ども・親子を対象とした子育て広場などのサービスに関する「子育て支援サービス分野」

今回は、②「保育分野」について調査を行った。

3. 事業の実施主体

委託者：浜松市 *一般財団法人自治体国際化協会の助成金を活用

受託者：公益財団法人浜松国際交流協会（HICE）

4. 事業内容

(1) 「保育分野」についての調査

①子どもの日本語の語彙調査

外国籍の子どもで日本の公立小学校へ入学を希望する子どもの語彙調査

②親の意識アンケート調査

来年度小学校入学予定の外国籍の子ども親への意識調査

③外国人経営の認可外託児所等の聞き取り調査

④先進事例「しんえい保育園」(浜松市)の聞き取り調査

⑤浜松市内の小学校教員への聞き取り調査

⑥他地域先進事例「れいんぼー保育園」(埼玉県)の聞き取り調査

⑦その他関係機関・他地域先進事例の聞き取り調査

(2) 外国人保護者向け子育て支援セミナーの開催

保育園や外国人経営の託児所に子どもを通わせるブラジル人保護者に呼びかけ、ペアレントトレーニングの内容をポルトガル語で行った。講師は、ペアレントトレーニング指導者研修を受けてきたブラジル人グループが務めた。

II 事業の考察

本事業全体を通して、考えられることは以下のとおりである。

- ・子どもの日本語の語彙力と保護者の日本語力には相関があると思われる。保護者に対して日本語教育を行うことで子どもの日本語の語彙力も向上する可能性がある。少なくとも、日本語の語彙力をつけようとする意欲につながると考えられる。したがって、保護者をターゲットとして日本語教育を行っていくことは子どもの日本語の語彙力の向上についても効果があると考えられる。
- ・外国人経営者による認可外託児所では、日本の認可保育園・幼稚園・子ども園と比べると保育者の配置等を含め全体的に課題があると見られるが、保護者は全体的に認可外託児所に満足していることが分かった。認可外託児所の経営者側が課題として挙げていたことも、託児料の徴収の遅延や設備についてがほとんどで、保育の内容に関することは課題として挙げていなかった。そこで、託児所に対して保育内容の充実に目を向けてもらうと同時に、保護者が子どもにとって最善の選択ができるよう情報提供や将来的なビジョンを持って子育てをするように保護者の意識に働きかけることも必要だと思われる。
- ・外国人経営者による認可外託児所の保育内容の充実を目指すとしても、資金的に大きな課題があることも分かった。埼玉県にあるブラジル人経営者の認可保育園の例では、保育園

経営者が派遣会社等の経営も行っており、その資金を背景に経営が成り立っている。浜松市内でも派遣会社が自社の外国人従業員のための保育園として始めた園が 2017 年 4 月より認可保育園となったが、それも会社経営の資金的背景があるために可能になったことと思われる。

- ・浜松市教育委員会や公立の小学校の教員への聞き取りでは、外国人経営者による認可外託児所から小学校へ上がる外国人の子どもについては、一般的に日本語力、日本の学校文化・社会の中での集団行動、保護者の学校への理解などについて課題が挙げられた。日本の公立小学校にスムーズに適応するための子どもに対する日本語や集団行動適応の支援、保護者に対する学校制度等への理解促進が求められている。

Ⅲ 事業報告

1. 「保育分野」についての調査

(1) 子どもの日本語の語彙調査

概要

- ◆調査目的：外国籍の子どもで日本の公立小学校へ入学を希望して浜松市教育委員会に申し立てに来た子どもを対象に日本語の語彙力を調査する。
- ◆調査期間：2017年8月～9月（一部、これ以降1月までに行った者も含む）
- ◆対象者：2018年4月に新1年生となる年齢の浜松市に住民登録のある外国籍の子ども260人のうち、日本の学校への入学を申し立てした子ども214人

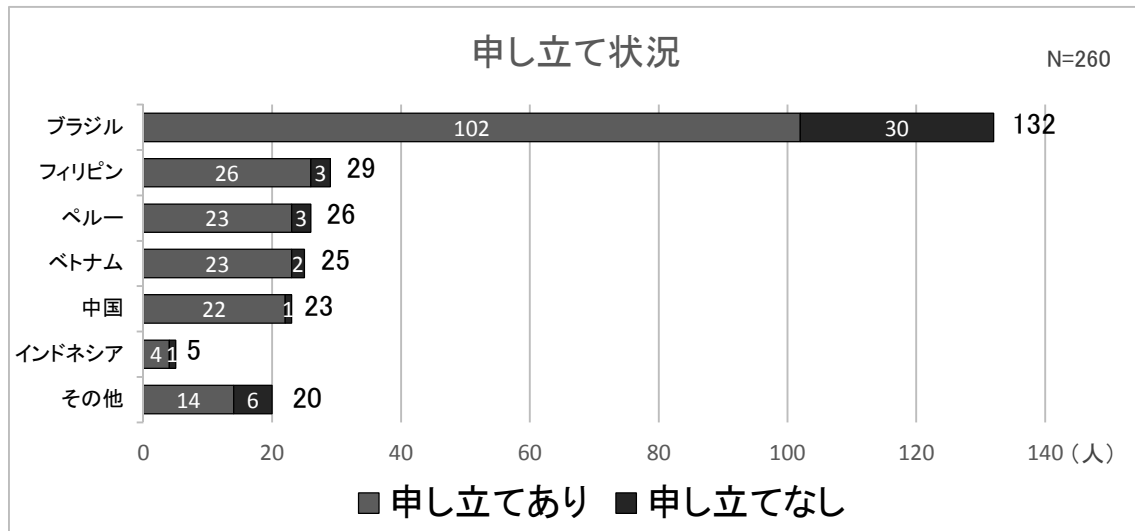
	外国籍の子ども	対象者
ブラジル	132 人	102 人
フィリピン	29 人	26 人
ペルー	26 人	23 人
ベトナム	25 人	23 人
中国	23 人	22 人
インドネシア	5 人	4 人
その他	20 人	14 人
合計	260 人	214 人

◆調査方法：

- ・日本の公立小学校へ入学を希望して浜松市教育委員会に申し立てに来た子どもを対象に、愛知県作成の「プレスクール実施マニュアル」掲載の語彙調査リスト100問から30問を抽出し、対面で絵カード等（語彙調査用紙については50ページを参照）を使って調査を行った。なお、この調査においては浜松市教育委員会の全面的な協力を得て行った。
- ・日本語の語彙力以外に、子どもの現在の状況（幼保等への在籍の有無など）、保護者の日本語力（自己申請）についても質問を行った。

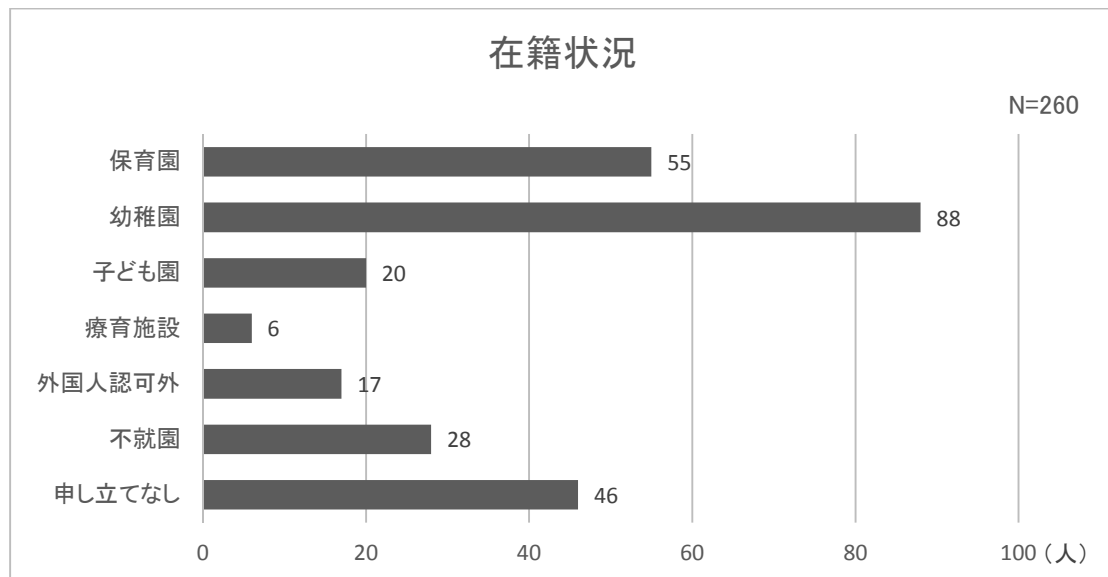
◆調査結果（集計）：

1. 日本の小学校への入学の申し立ての状況

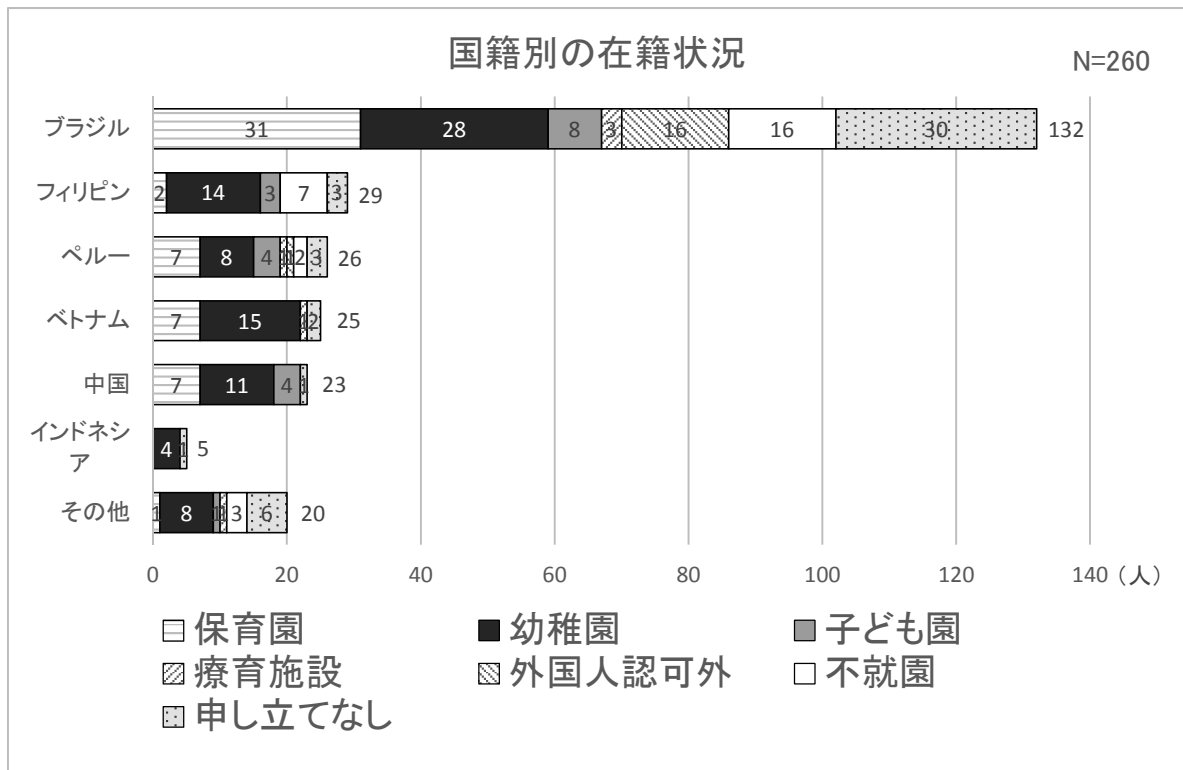


対象年齢 260 人のうち日本の小学校へ申し立てをしたのは 214 人（約 83%）で残りの 46 人（17%）は申し立てをしていない。特にブラジル国籍者は 30 人（約 23%）が申し立てをしておらず、その多くが外国人学校へ入学すると推測される。

2. 在籍状況（全体）

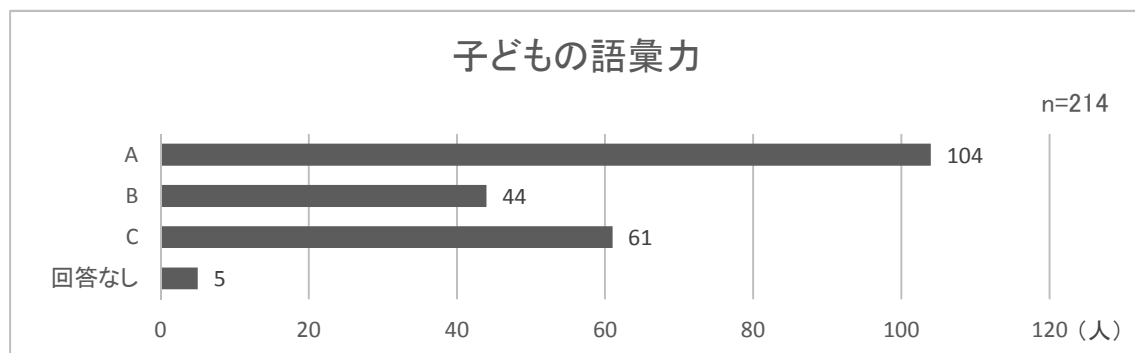


3. 国籍別の在籍状況



ブラジル国籍者で申し立てをした人のうち、16人（16％）は外国人経営の認可外託児所、同じく 16人（16％）は不就園で、合わせると 31％が日本の保育施設等に在籍していない状況で日本の公立小学校に入学する予定である。また、フィリピン国籍者で申し立てをした 26人のうち 7人（27％）が不就園であり、ブラジル国籍者に次いで人数が多く、最も多い割合である。

4. 日本の小学校へ申し立てをした子どもの日本語の語彙力（全体）



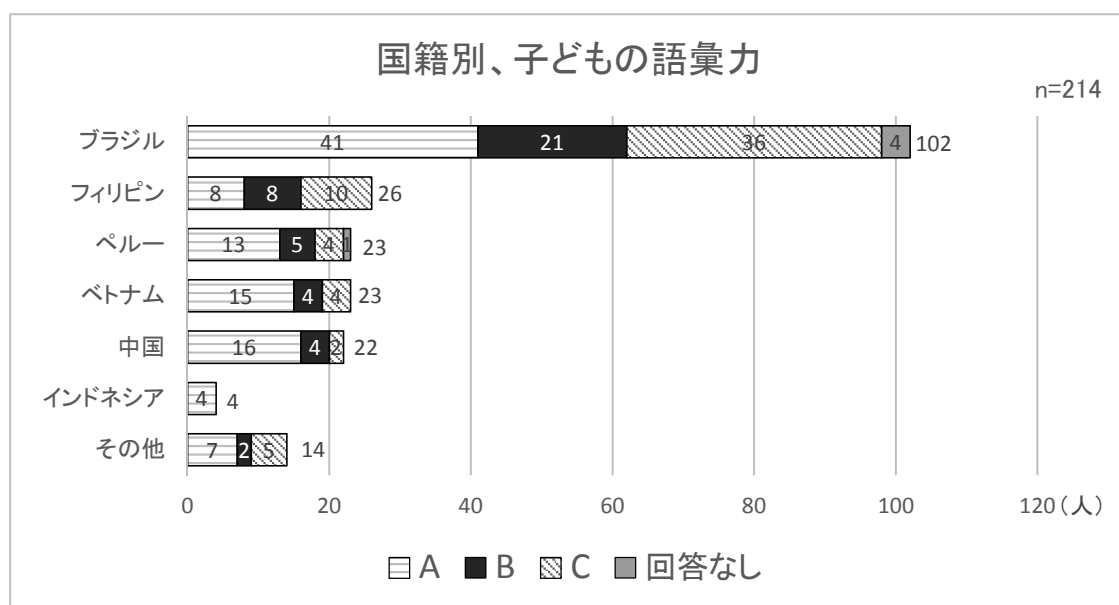
A（正答率 80%以上）

B（正答率 1～79%）

C（正答率 0%）

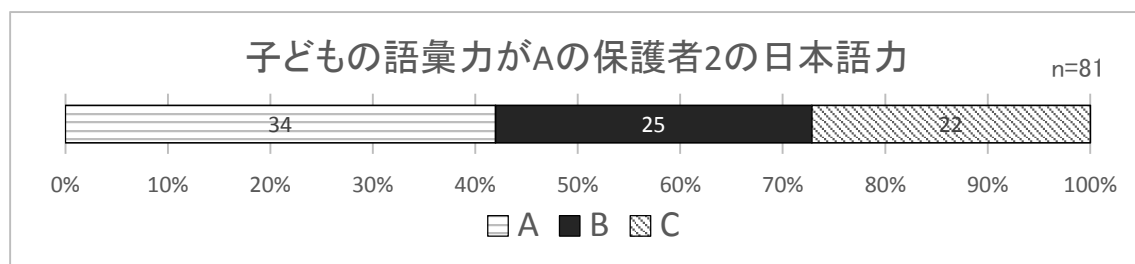
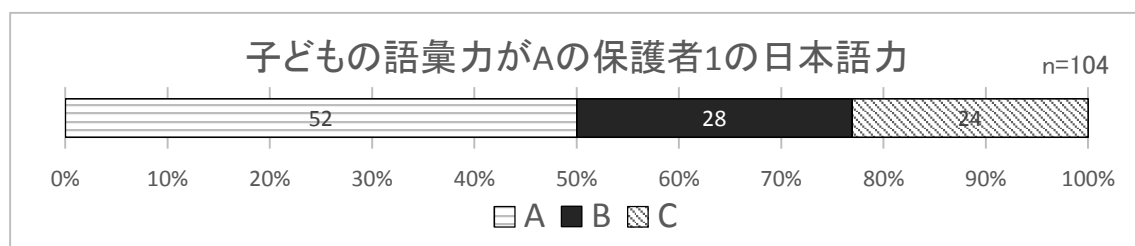
申し立てをした子ども 214 人のうち回答をした約半数の 104 人は日本語の語彙力は A ですが、残りの半数 105 人は B 及び C で日本語の語彙力に課題がある。さらに、そのうち C が 61 人（58%）と過半数を占める。

5. 申し立てをした子どもの日本語の語彙力（国籍別）



ブラジル国籍者のうち 36 人（35%）、フィリピン国籍者のうち 10 人（38%）が、日本語の語彙力が C であり、他の国籍に比べて割合が高い。

6. 日本語の語彙力が A の子どもの「保護者 1」及び「保護者 2」（注 1）の語彙力



子どもの日本語の語彙力が A の保護者の日本語力は半数近くが A となっている。ただし、保護者の日本語力（注 2）は自己申告のため、客観的なものではないことに注意が必要。

*注 1

保護者 1：原則として世帯主

保護者 2：保護者 1 ではない同居しているもう一人の保護者

*注 2

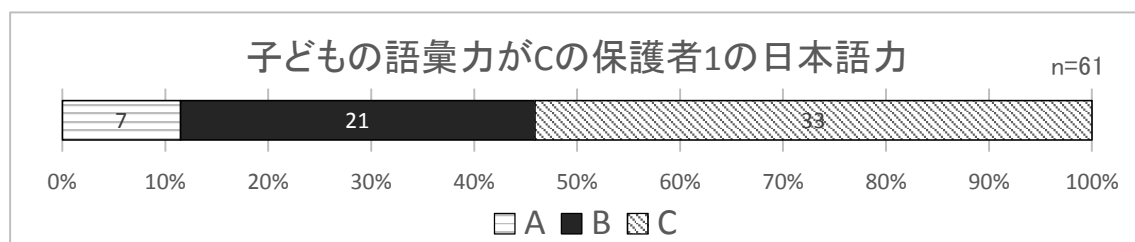
保護者の日本語力（いずれも自己申告）

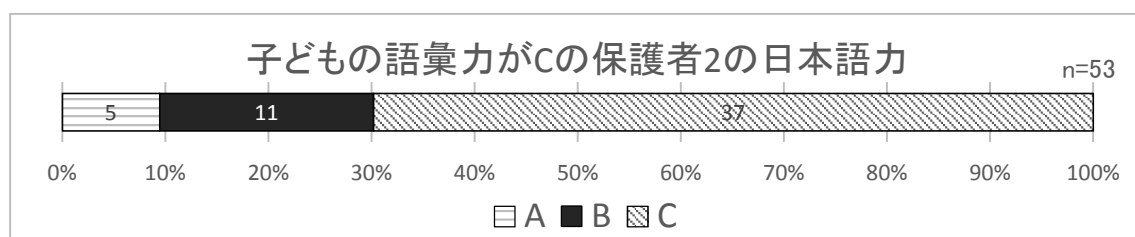
A：会話・読み書きどちらも大体できる

B：会話は大体できる

C：会話も読み書きもほとんどできない

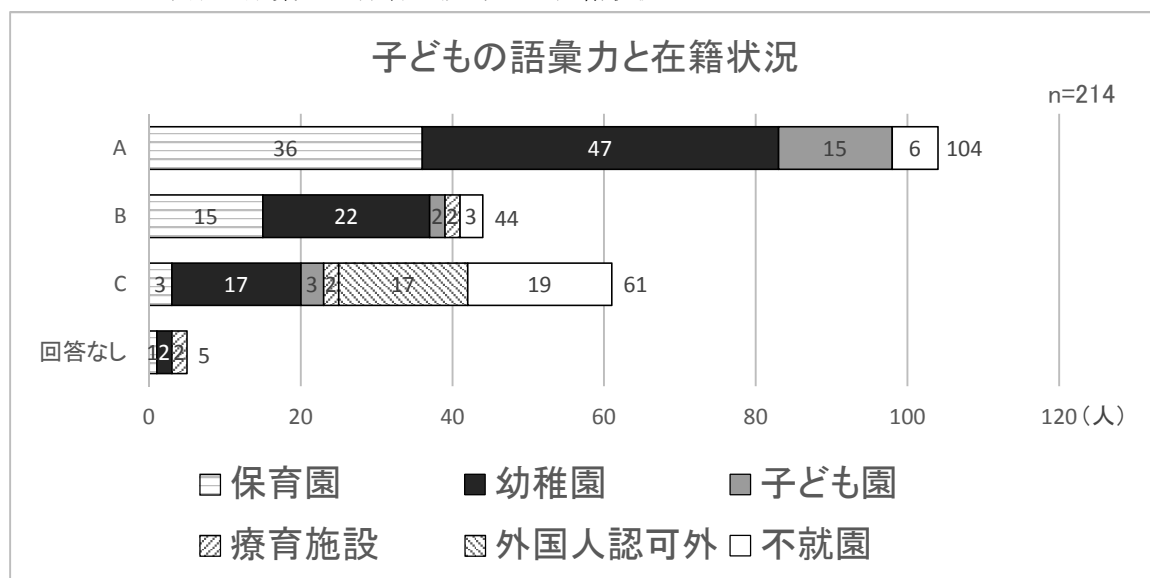
7. 日本語の語彙力が C の子どもの「保護者 1」及び「保護者 2」の日本語力





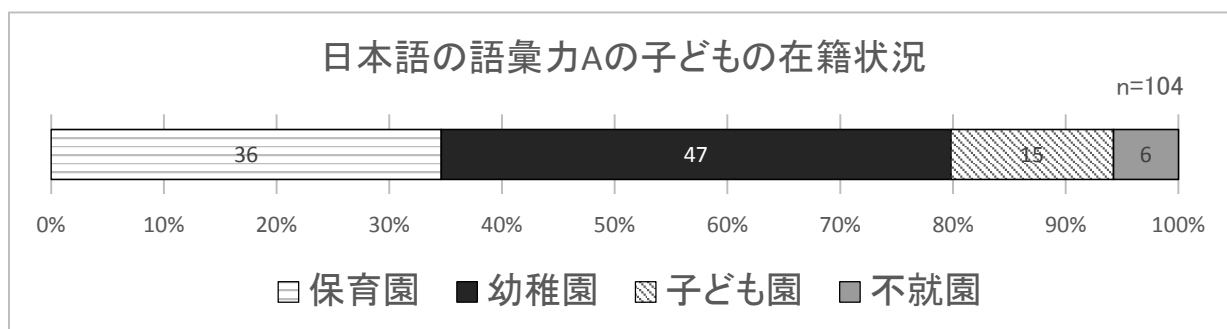
子どもの日本語の語彙力が C の保護者の日本語力は 54%～70%が C となっている。これについても、保護者の日本語力は自己申告のため客観的なものではないが、全体として、日本語の語彙力の高い子どもの保護者の日本語力は総じて高く、日本語がほぼ全く分からない子どもの保護者の日本語力は低い傾向があると思われる。

8. 子どもの日本語の語彙力と保育施設等への在籍状況

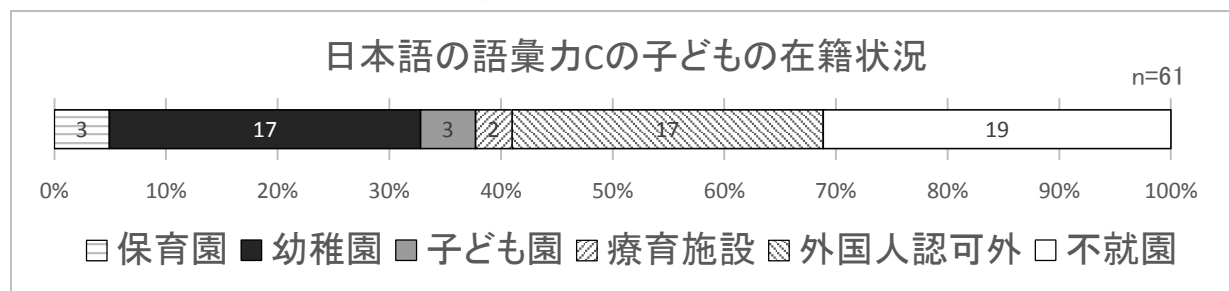


日本語の語彙力が A の子どものほとんどは日本の保育園・幼稚園・こども園に在籍しており、日本語の語彙力が C の子どものおよそ 3 割が外国人認可外託児所で、同じくおよそ 3 割はどこにも通っていない子どもである。

9. 日本語の語彙力 A の子どもの在籍状況



10. 日本語の語彙力 C の子どもの在籍状況



日本語の語彙力 C の子どもの在籍状況は「日本の保育園・幼稚園・こども園等」、「外国人認可外託児所」、「どこにも通っていない」の 3 つのカテゴリーが同じくらいの割合であった。

なお、子どもの母語の語彙力を調査することで、子どもの日本語・母語両方の言葉がバランスよく発達しているのか、どちらの言葉も発達が未熟かなど、新たな課題が見えてくる可能性があるが、今回の調査では実施していない。

(2) 親の意識アンケート調査

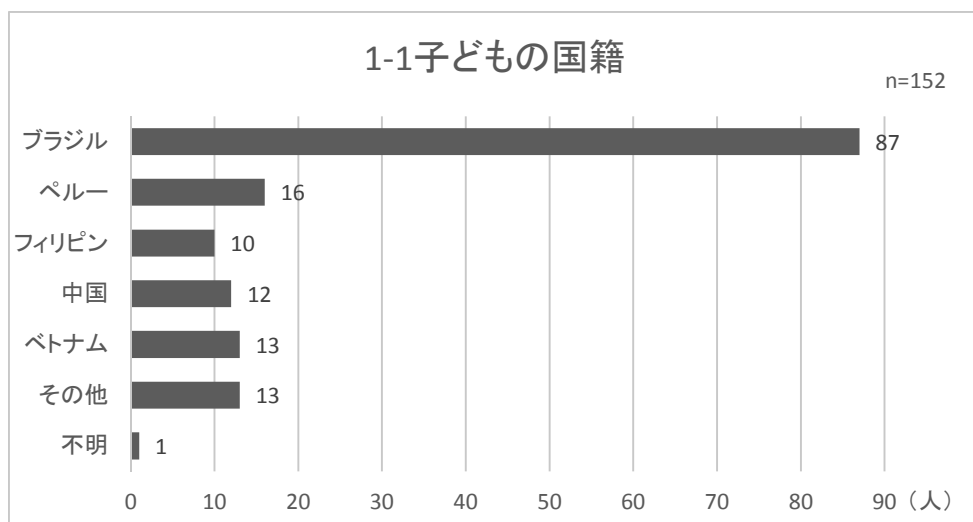
概要

- ◆調査目的：小学校入学予定の外国籍の子どもの親を対象に、子育ての様子や悩み、希望を聞くことで、親の置かれている状況や意識を調べ、どのような支援が必要か考える。
- ◆調査期間：2017年8月～9月
- ◆対象者：
 - ・2018年4月に新1年生となる年齢の浜松市に住民登録のある外国籍の子どもの親で、教育委員会に入学の申し立て手続きに来た者
 - ・外国人経営者による認可外託児所に通う5、6歳の子どもの親
- ◆回答者数：152人
- ◆調査方法：
 - ・日本の公立小学校へ入学を希望して教育委員会に申し立てに来た子どもの親へアンケートを実施。
 - ・外国人経営者による認可外託児所に通う5、6歳の子どもの親へアンケートを実施。

◆調査結果（集計）：

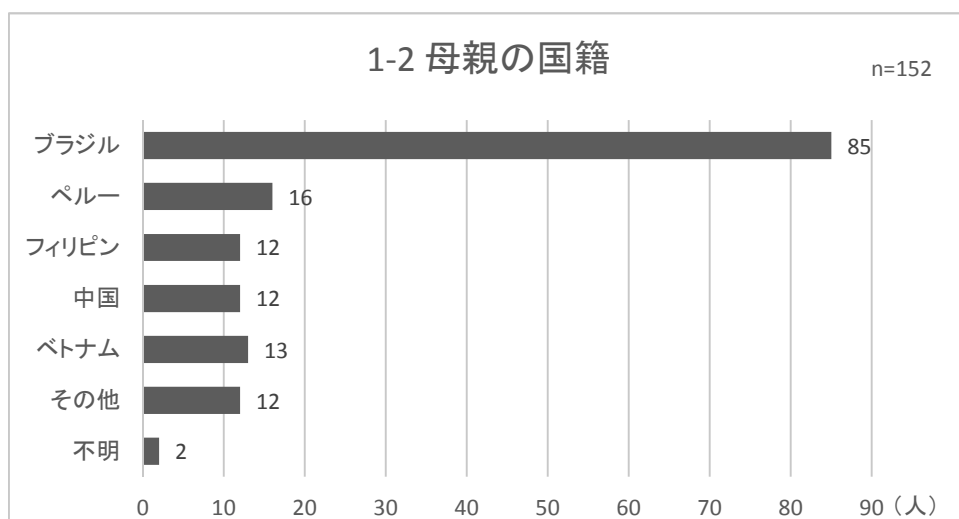
1. 基本情報

1-1. 子どもの国籍



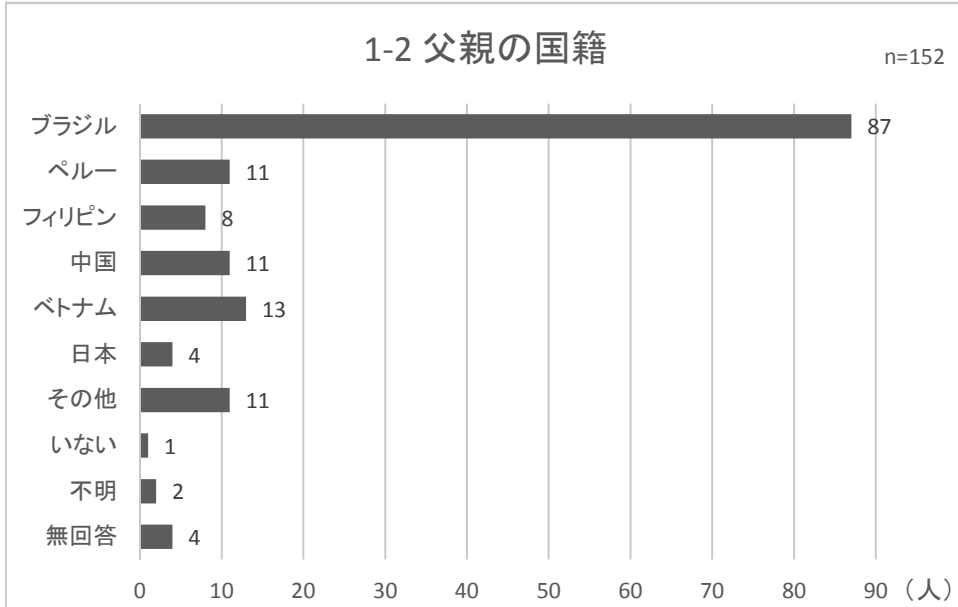
その他の内訳は、韓国(3)、インドネシア(2)、各(1)：パラグアイ、ネパール、バングラデシュ、マレーシア、台湾、日本。二重国籍（フィリピン/ブラジル）、二重国籍（ブラジル/インドネシア）。

1-2-1. 母親の国籍



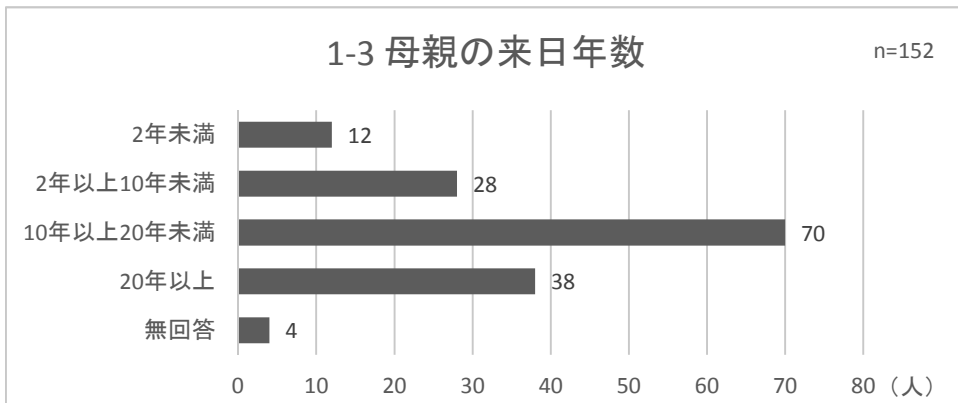
その他の内訳は、韓国(3)、インドネシア(3)、パラグアイ(2)、各(1)：ネパール、パキスタン、マレーシア、台湾。

1-2-2. 父親の国籍

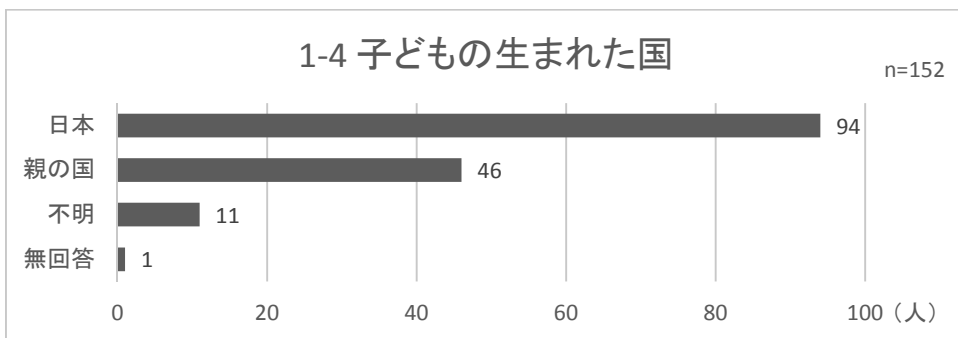


その他の内訳は、韓国(3)、インドネシア(2)、パラグアイ(2)、その他各(1)：ネパール、バングラデシュ、マレーシア、台湾。

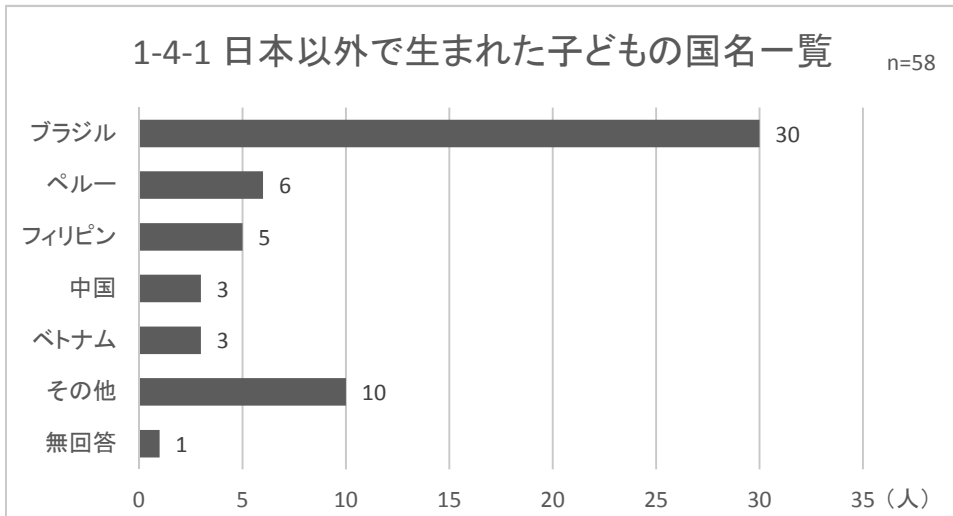
1-3. 母親の来日年数



1-4. 子どもの生まれた国

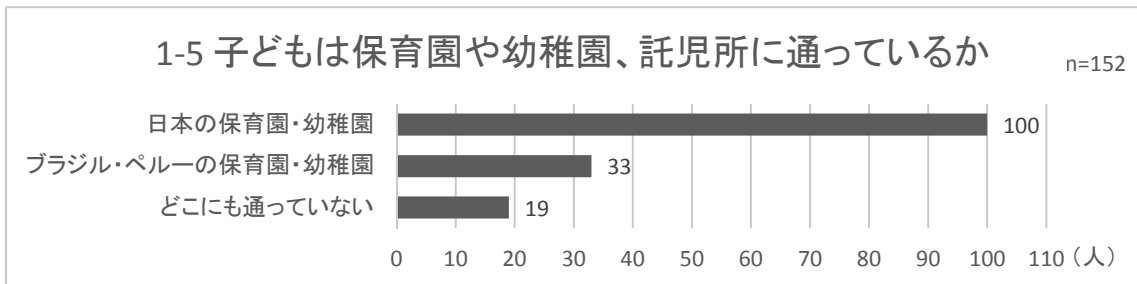


1-4-1. 日本以外で生まれた子どもはどこの国で生まれたか

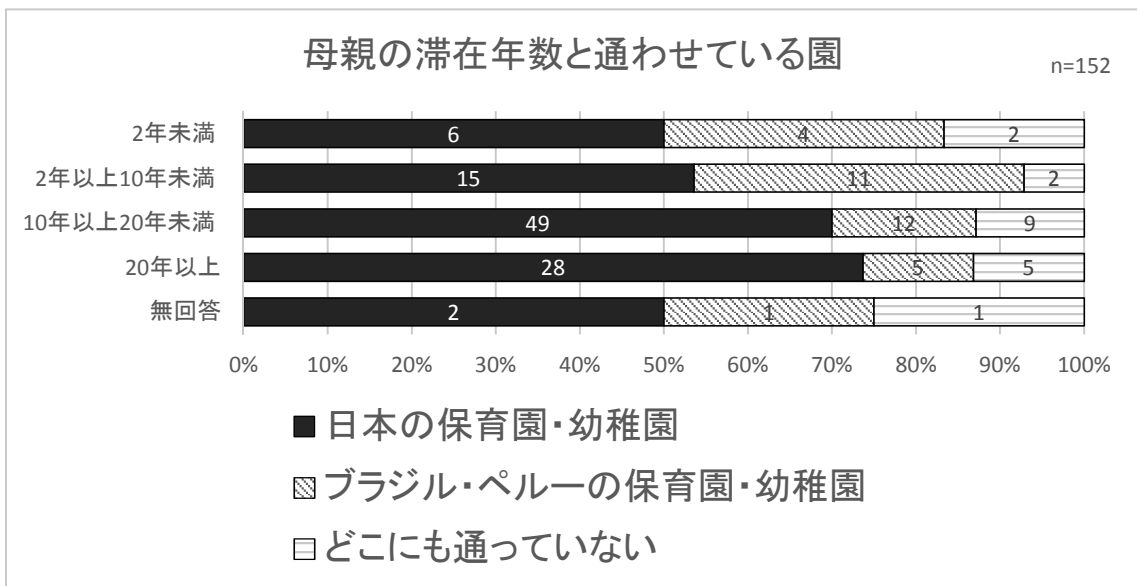


その他の内訳は、韓国(2)、不明(4)、その他各(1)：インドネシア、ネパール、マレーシア、台湾。

1-5. 子どもの現在の在籍状況

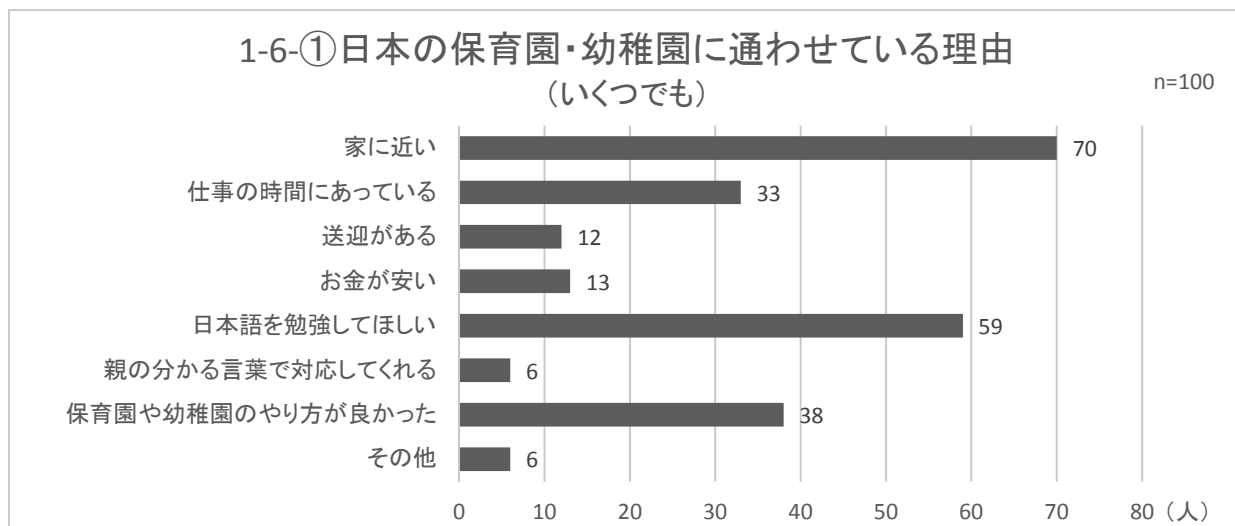


* 1-3 母親の滞日年数と 1-5 子どもの在籍状況の関係

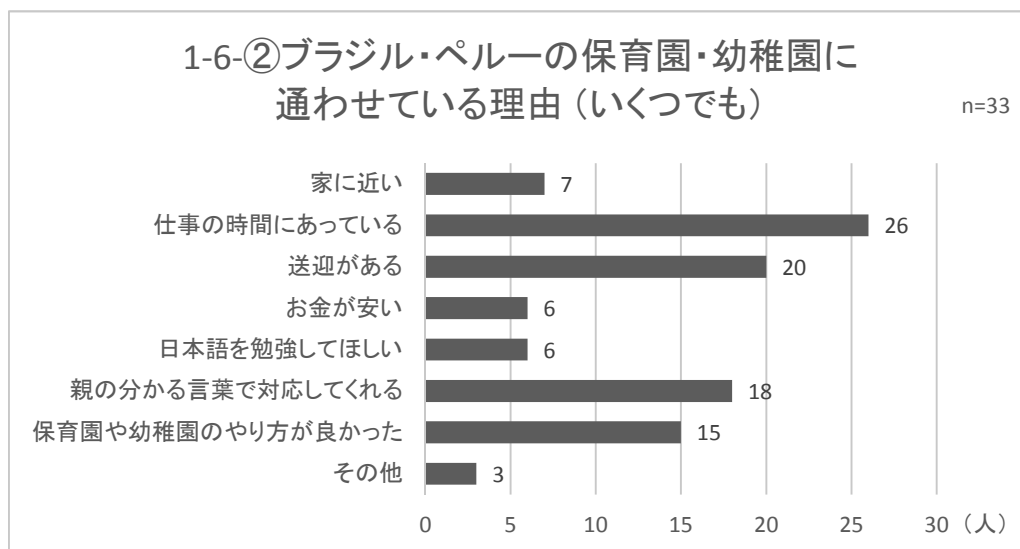


滞在年数が長いほど日本の保育・幼稚園に通わせている傾向が伺える。どの層にも「どこにも通っていない」が10%程度いる。

1-6. 保育園に通わせてる理由



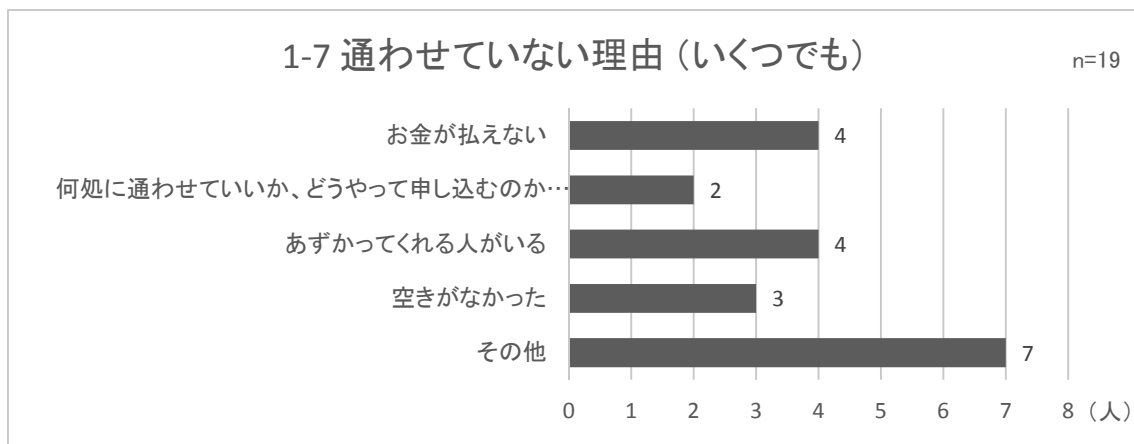
日本の保育園・幼稚園に通わせている理由としては、「家に近い」「仕事の時間にあっている」という親の都合に関するものと、「日本語を勉強してほしい」「保育園や幼稚園のやり方がよかった」という内容に関するものと両方の理由が多かった。「お金が安い」ということはあまり理由として挙げられていなかった。



ブラジル・ペルーの保育園・幼稚園に通わせている理由としては、「仕事の時間にあっている」「送迎がある」「親の分かる言葉で対応してくれる」という親の都合に関するものが多かった。「保育園や幼稚園のやり方が良かった」というものも、ブラジル・ペルーの保育園・幼稚園に通わせている33人のうち15人が選択しており、半数程度は満足していることが

うかがえる。

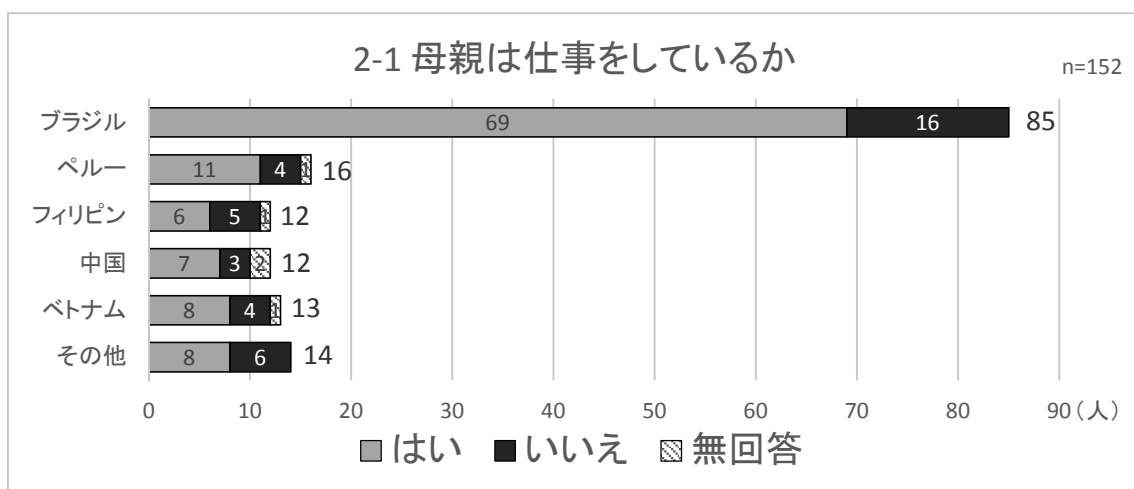
1-7. 子どもをどこにも通わせていない理由



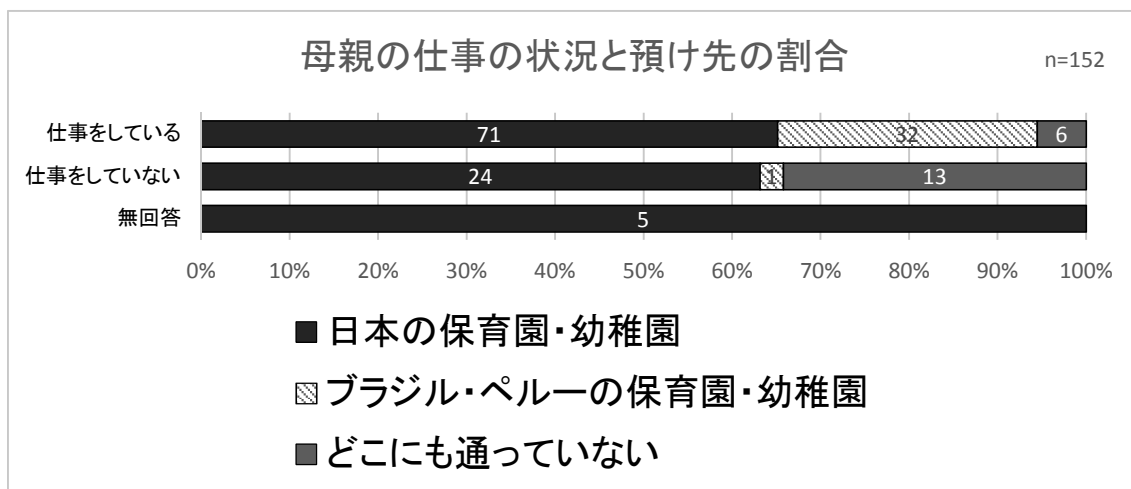
「その他」としては、仕事をしていない、ムスリムの学校、などの記述があった。

2. 親の日常生活

2-1. 母親は仕事をしているか

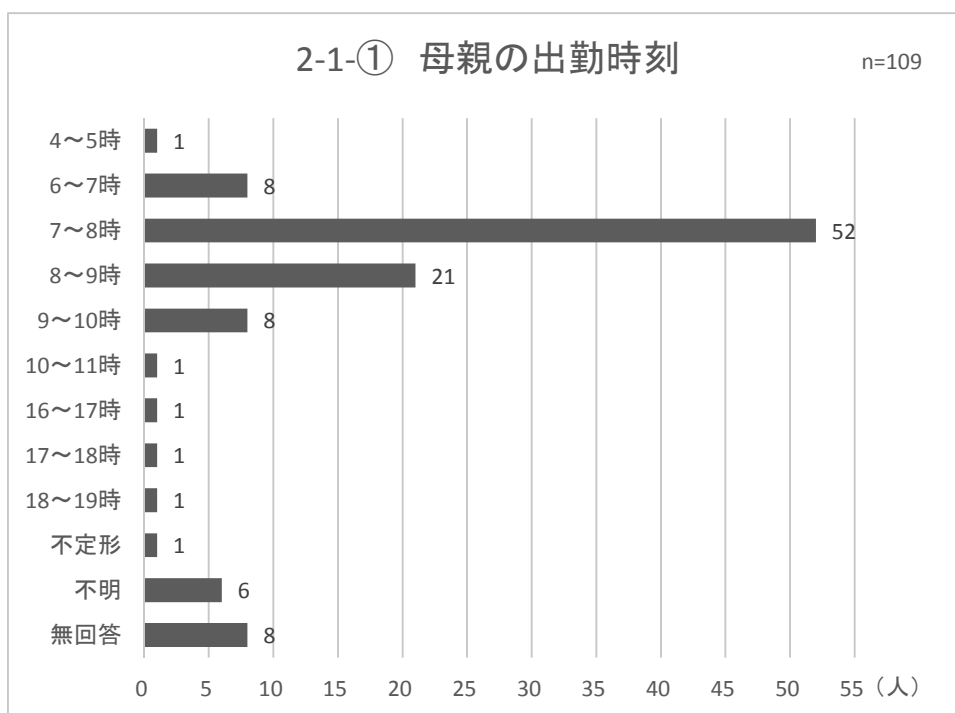


＊2-1. 母親の仕事の状況と 1-5. 子どもの在籍状況の関係

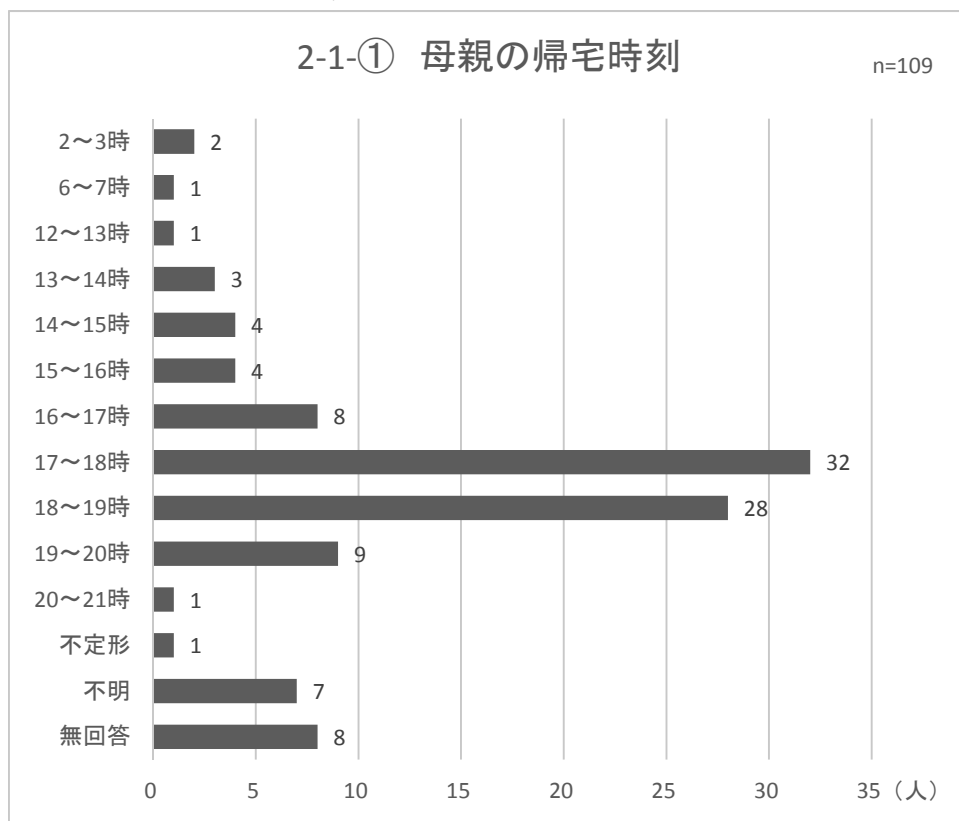


母親が仕事をしていない場合に「どこにも通っていない」割合が高くなっている。

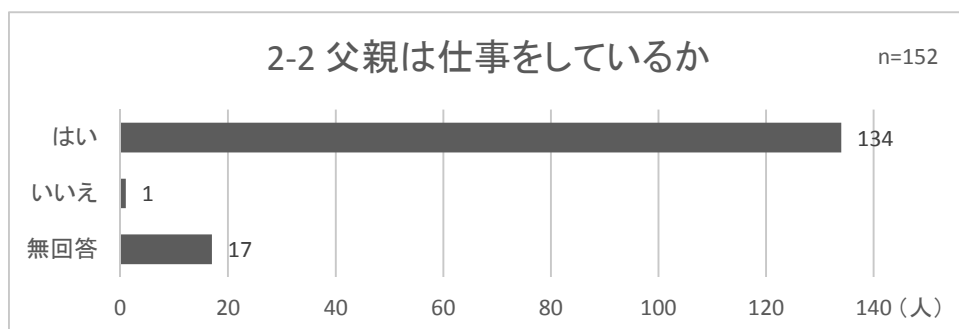
2-1-1. 母親の出勤時刻（家を出る時刻）



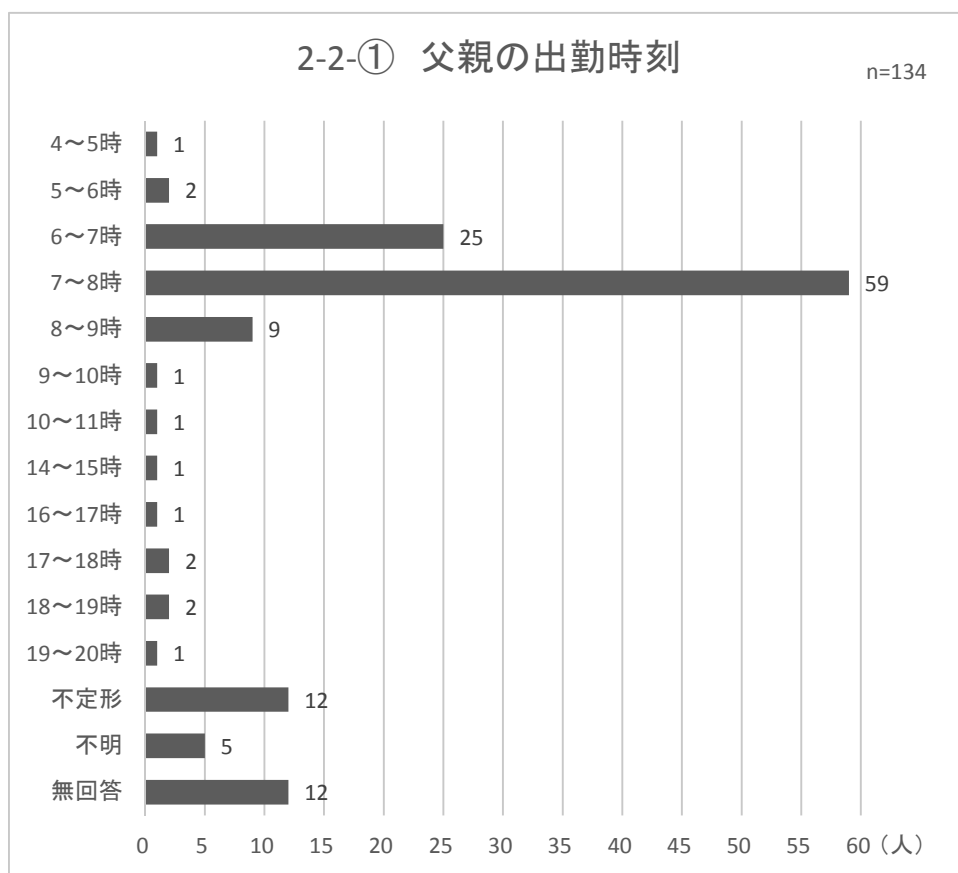
2-1-2. 母親の帰宅時刻（家に戻る時刻）



2-2. 父親は仕事をしているか

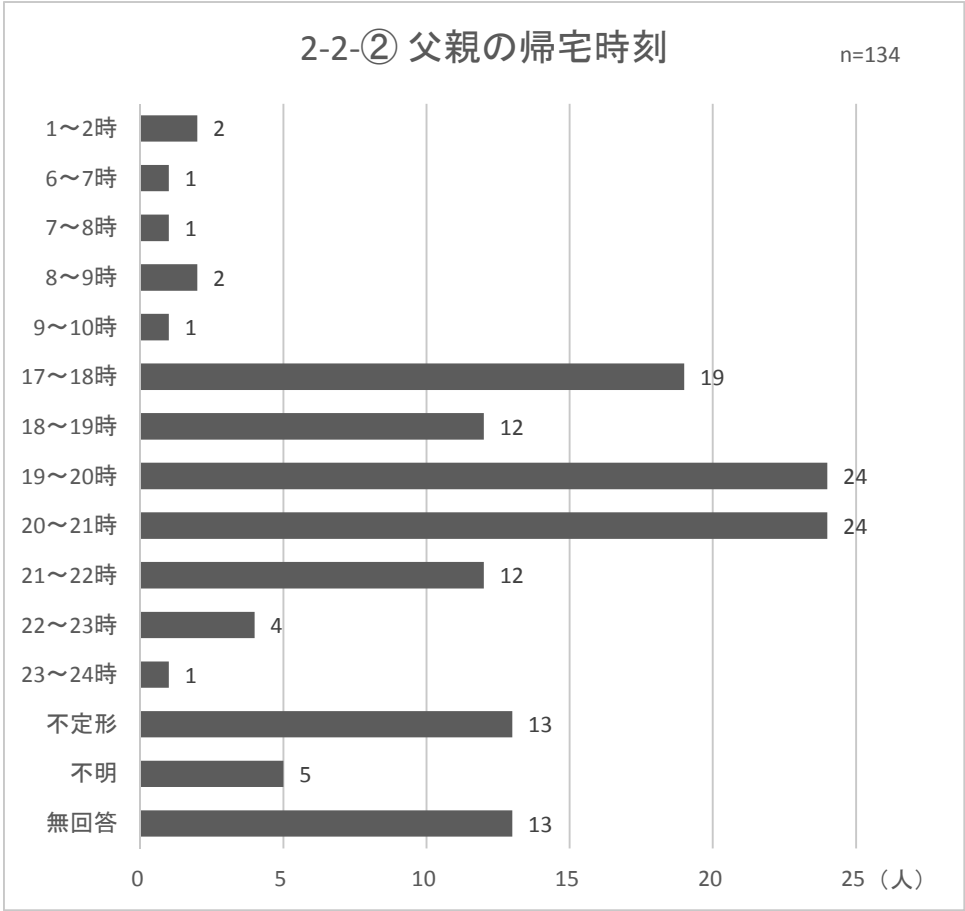


2-2-1. 父親の出勤時刻（家を出る時刻）



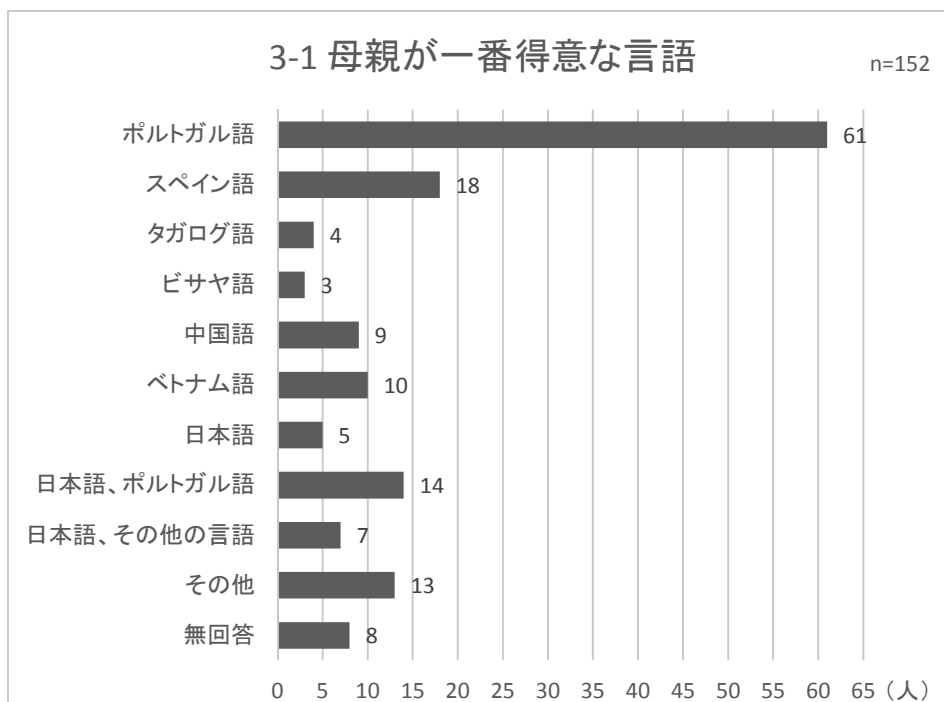
「不定形」として、二交代、三交代勤務という回答もあった。

2-2-2. 父親の帰宅時刻（家に戻る時刻）

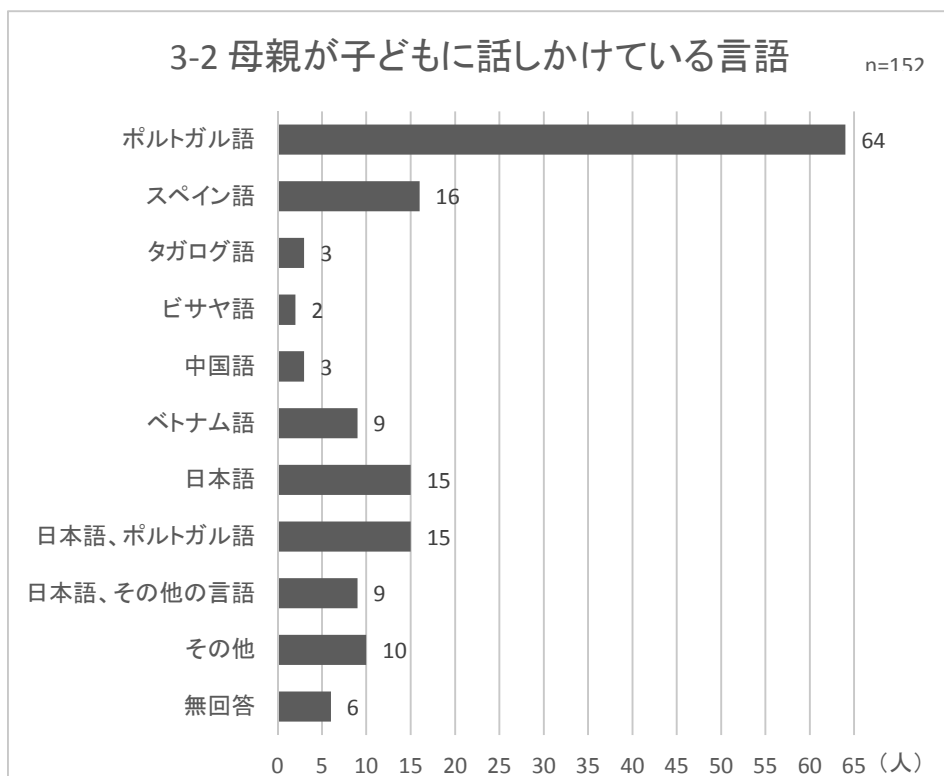


3. ことば

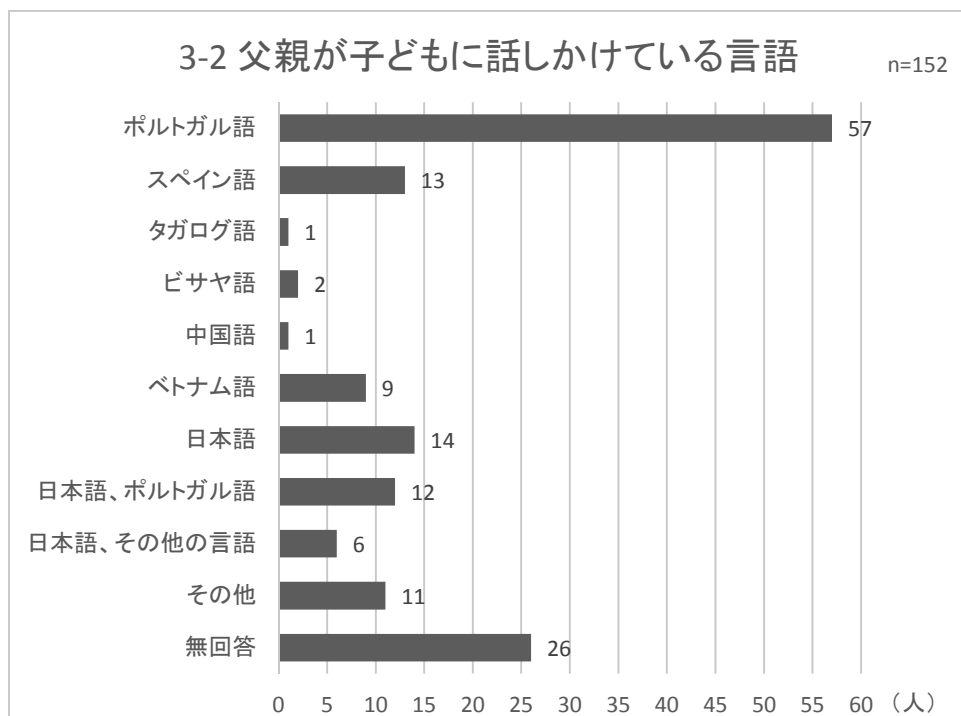
3-1. 母親が一番得意な言語



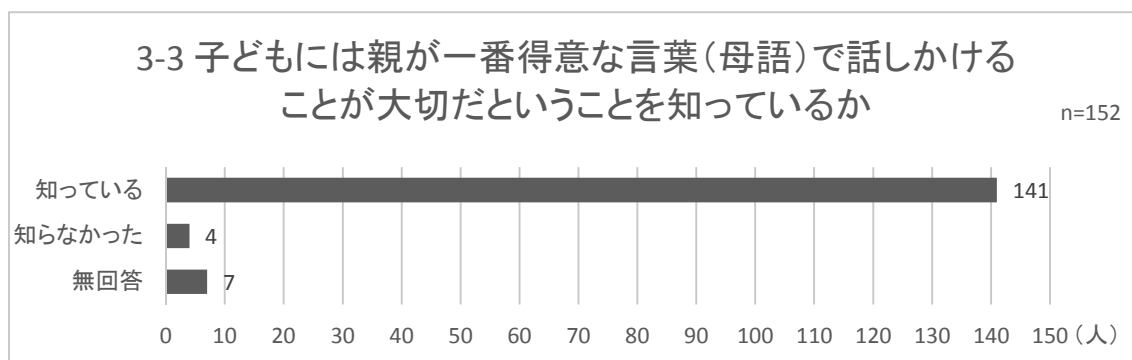
3-2. 母親が子どもに話しかけている言語



3-2. 父親が子どもに話しかけている言語

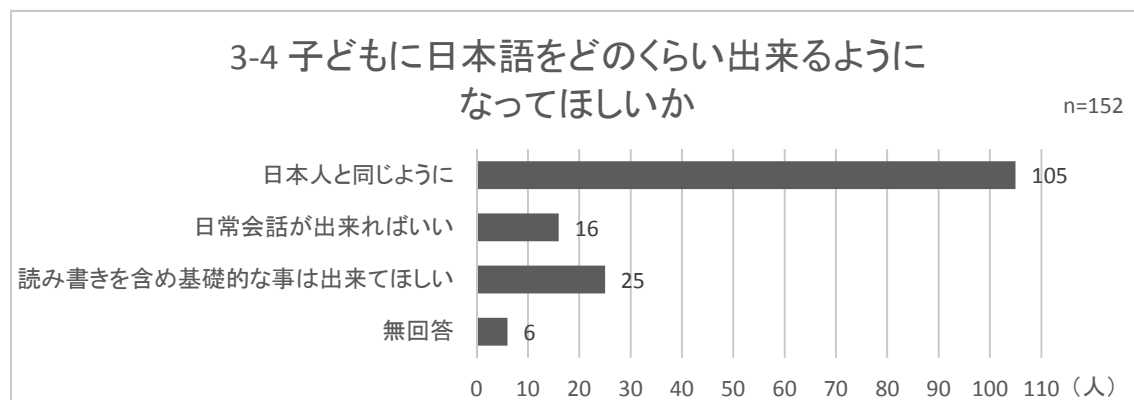


3-3. 子どもには親が一番得意な言語で話しかけることが大切だということを知っているか

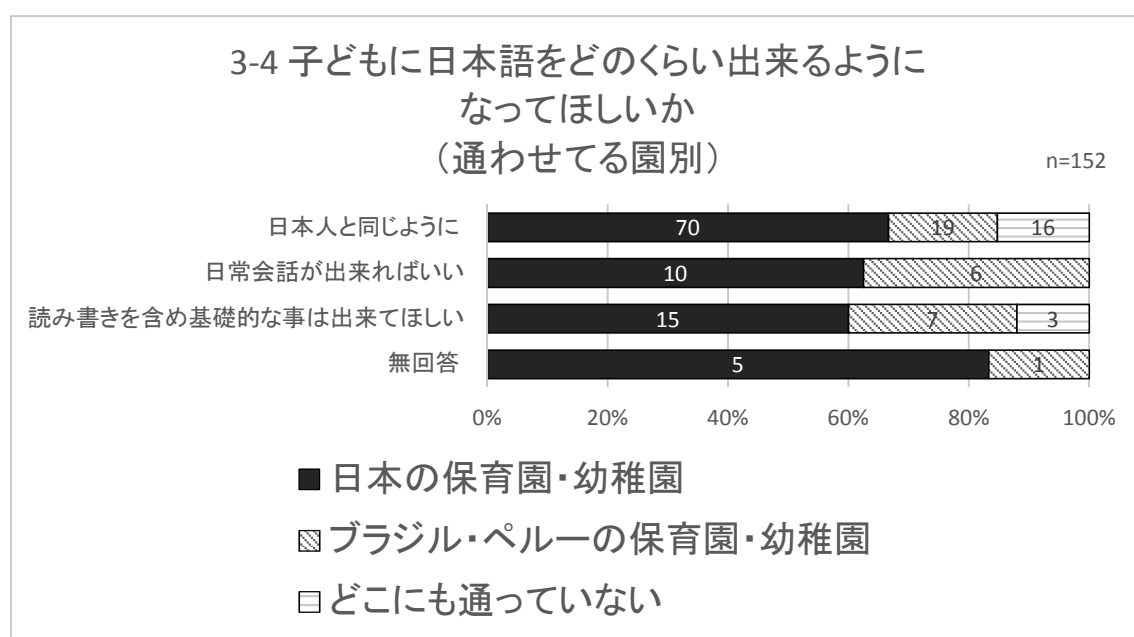


「知らなかった」「無回答」の人は、日本の学校へ通わせる、日本で暮らしていくため、という意見が多い。

3-4. 子どもには日本語をどのくらいできるようになってほしいか

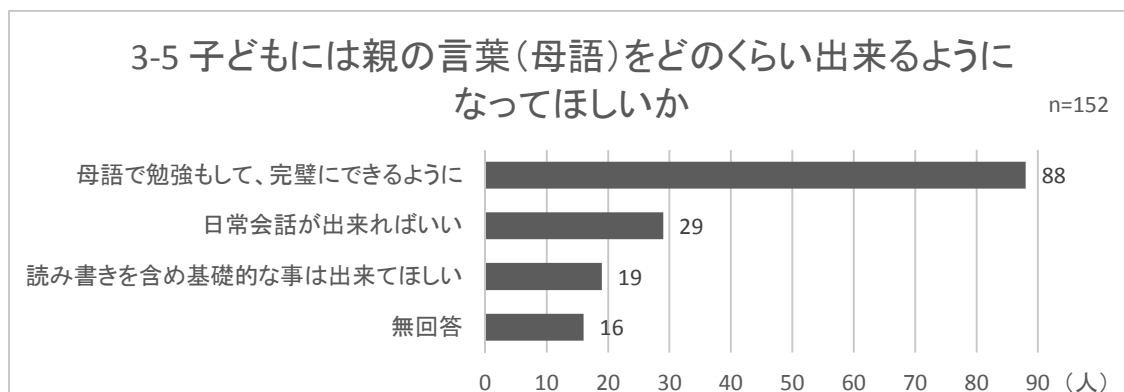


*3-4. 子どもに日本語をどのくらいできるようになってほしいかを 1-6. 子どもの在籍状況別でみる

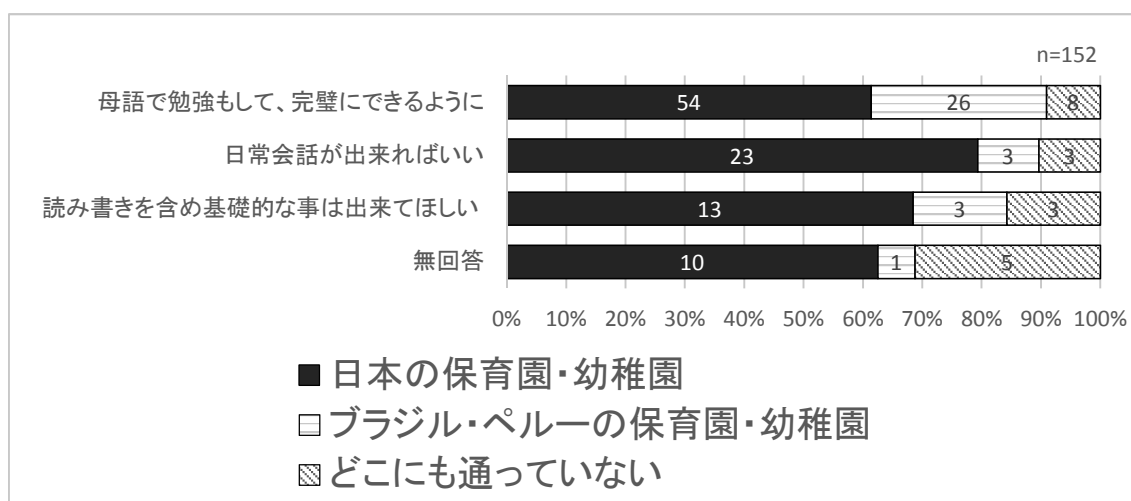


日本の保育園・幼稚園に通わせている親は、日本語も「日本人と同じように」できるようになってほしいと思っている人の割合が高い。

3-5. 子どもには親の言葉をどのくらいできるようになってほしいか



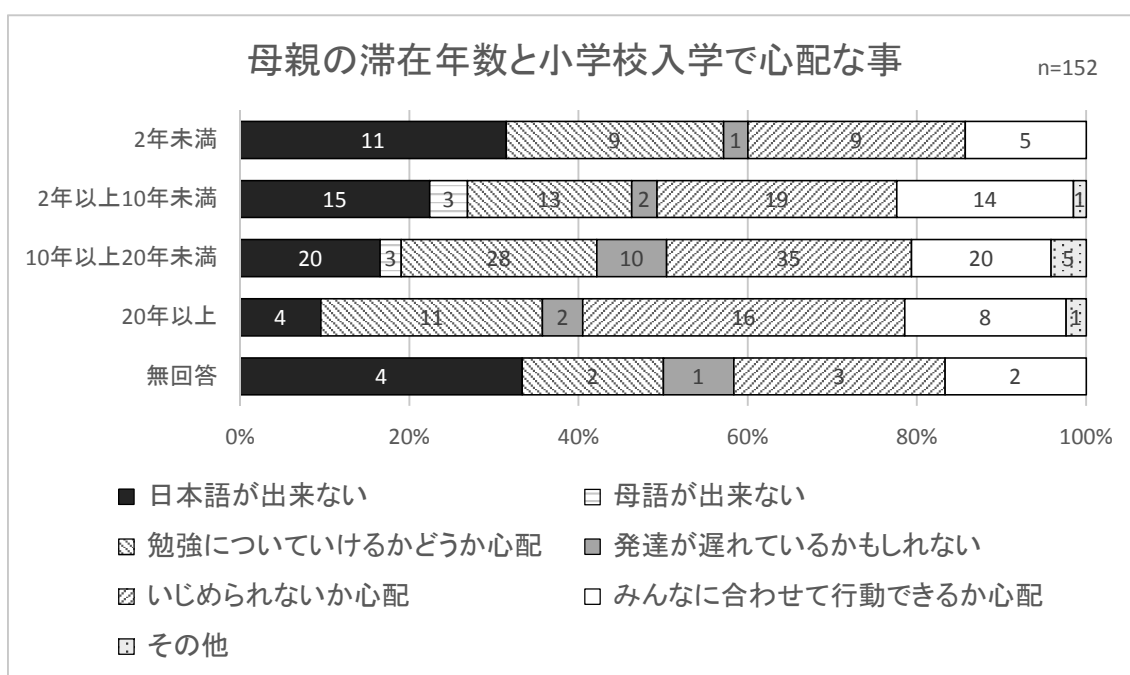
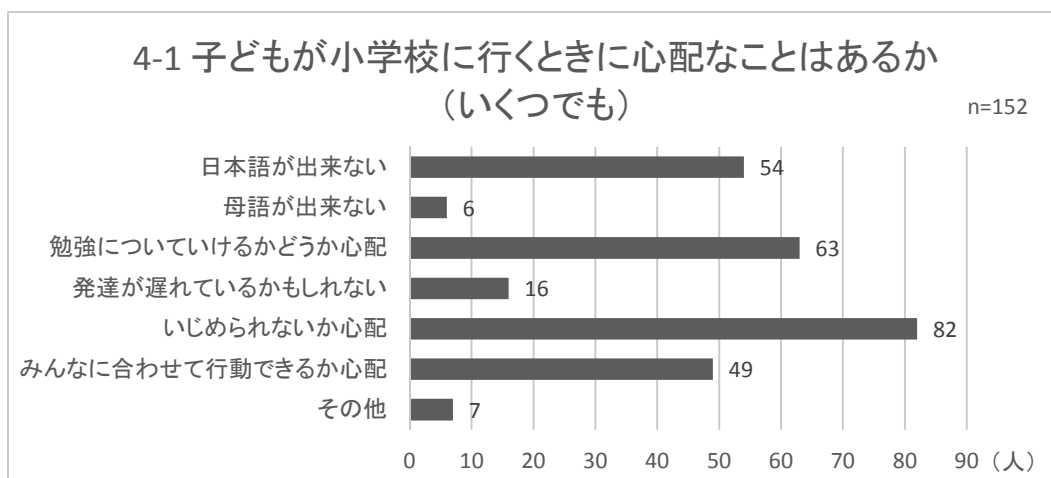
*3-5. 子どもに親の言語をどれくらいできるようになってほしいか、1-6. 子どもの在籍状況別でみる



ブラジル・ペルーの保育園・幼稚園に通わせている親は「母語で勉強もして、完璧にできるように」になってほしいと思っている人の割合が高い。また、日本の保育園・幼稚園に通わせている親も、「母語で勉強もして、完璧にできるように」になってほしいと思っている人は半数くらいいることが分かる。

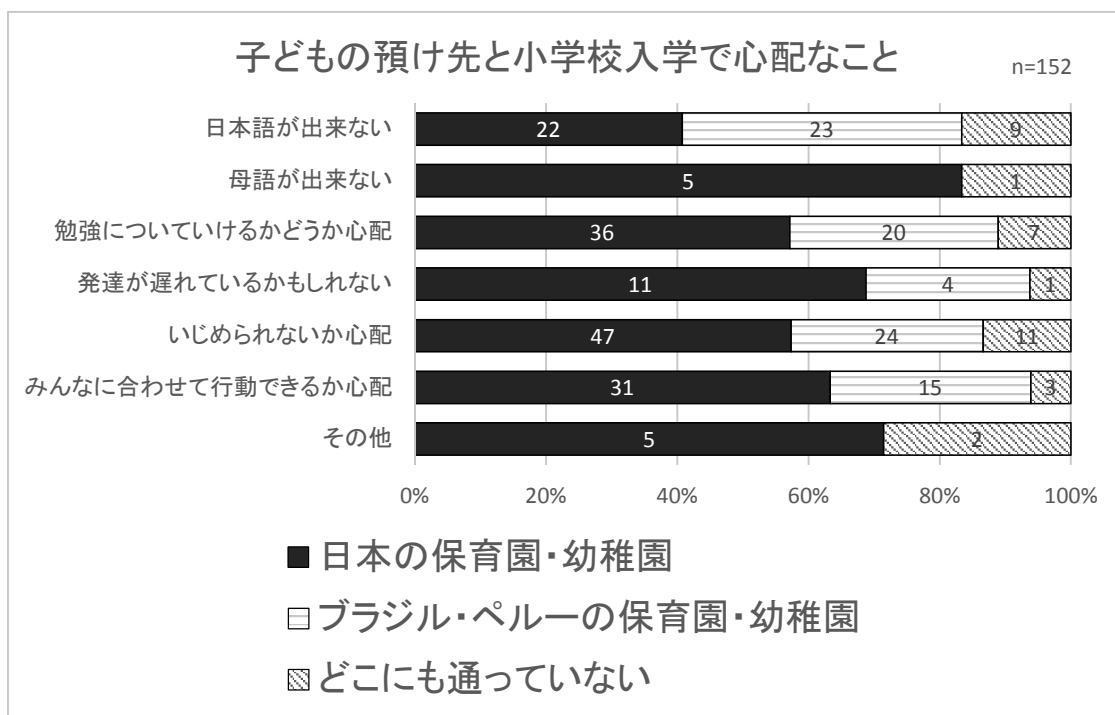
4. 子どものこと

4-1. 子どもが小学校に行くときに心配なこと



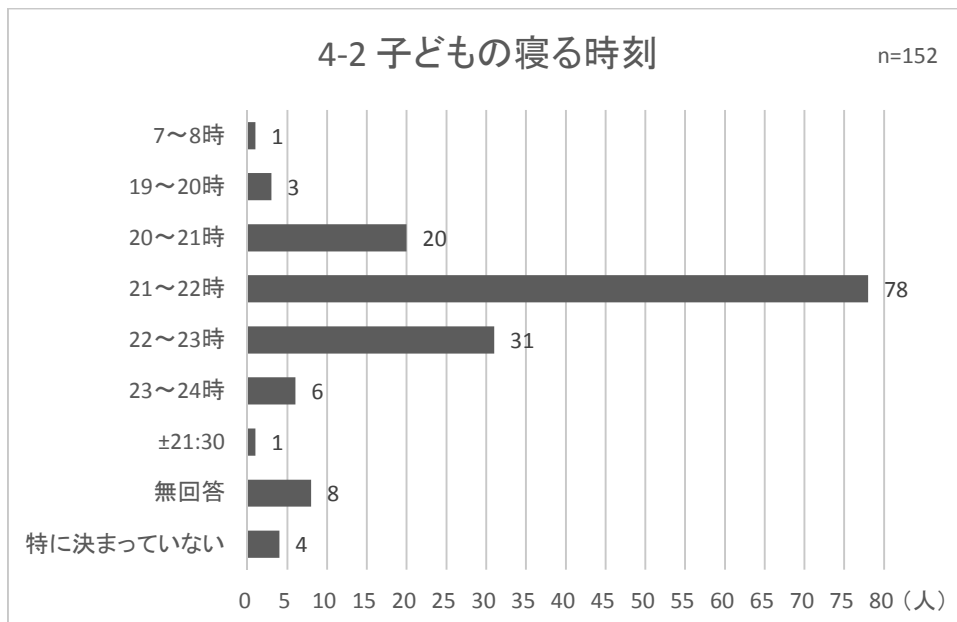
「その他」として、「1人での登下校がこわい・できるか」、「じっと座っていただけるか心配」などがあった。

滞在年数が少ないほど子どもは日本語が出来ない事を心配している。どの年代でも「勉強についていけるか」、「いじめられないか」を心配している割合が多い。

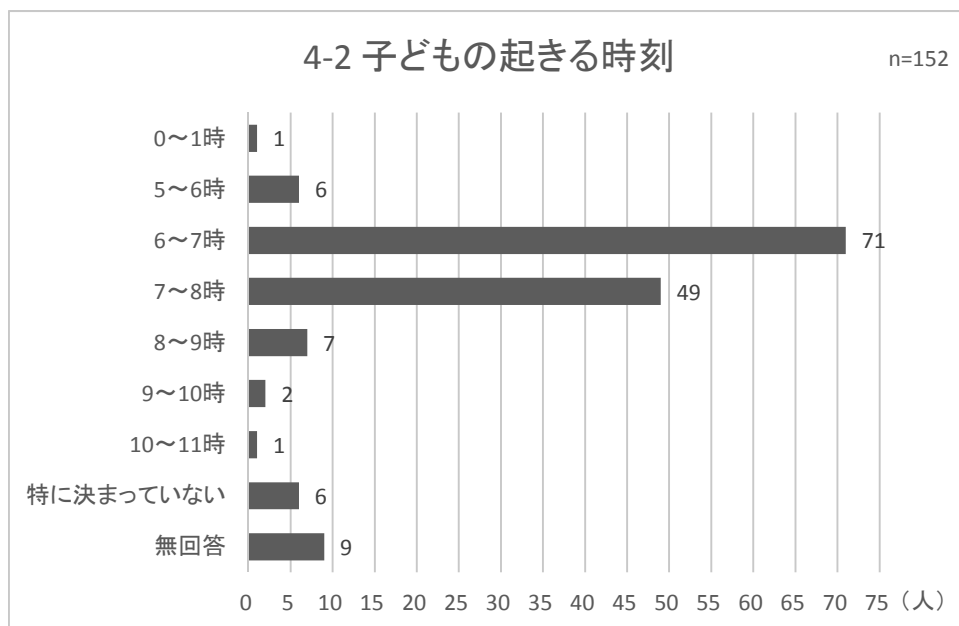


ブラジル・ペルーの保育園・幼稚園に通わせているほど、日本語が出来るかどうかの不安が多いことが伺え、母語が出来ない不安はない。

4-2. 子どもの寝る時刻

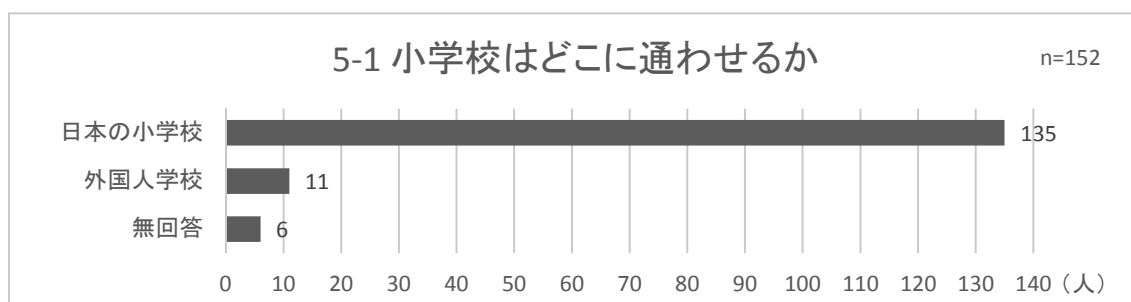


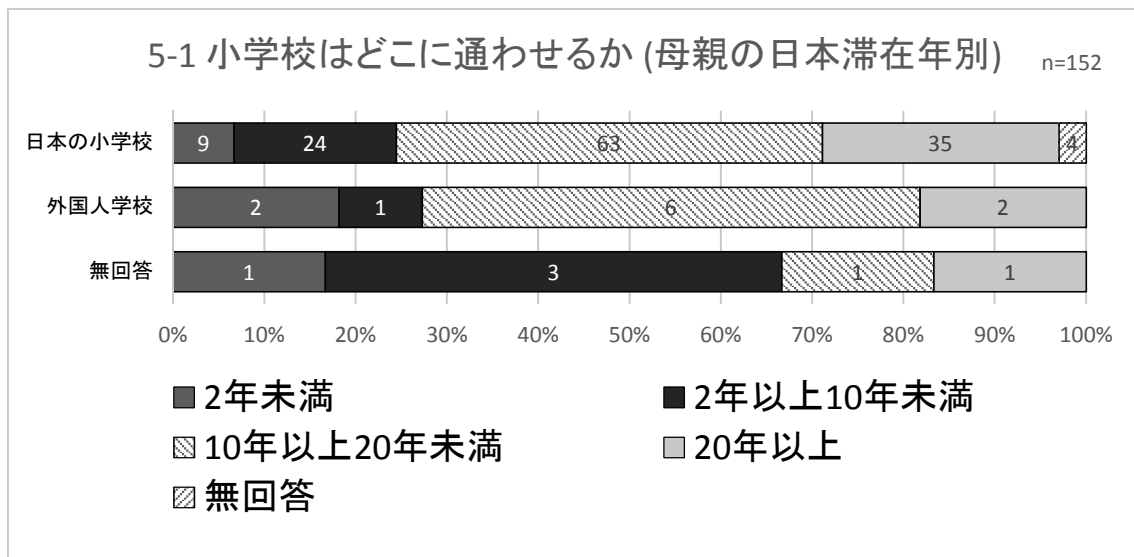
4-2. 子どもの起きる時刻



5. 子どもの将来

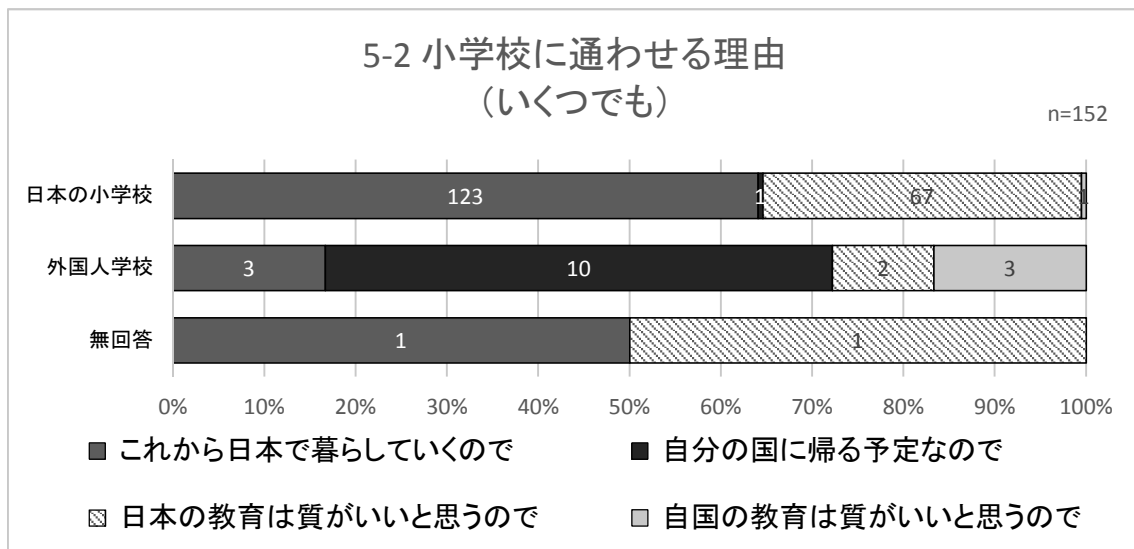
5-1. 小学校は日本の小学校と外国人学校のどちらに通わせるか



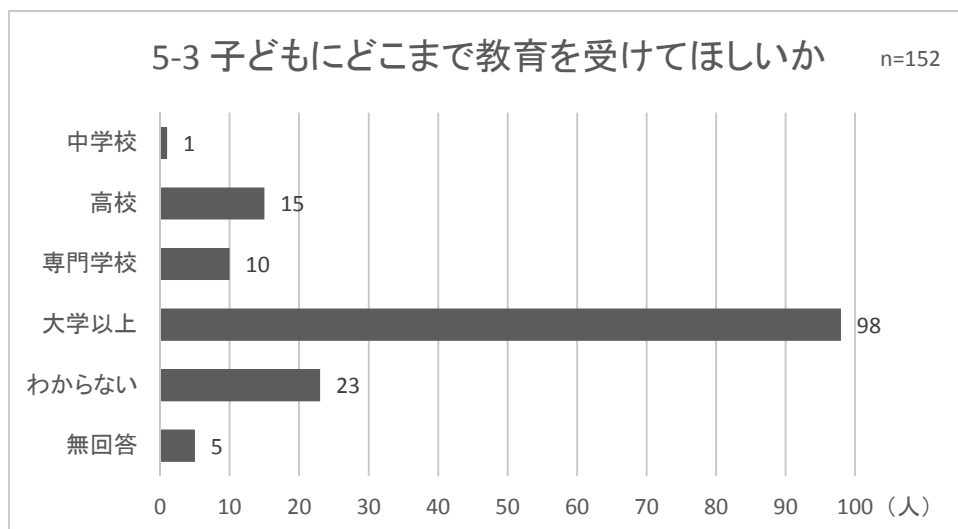


滞在年数が長いほど日本の小学校へ通わせようとしている傾向が伺える。

5-2. 小学校に通わせる理由

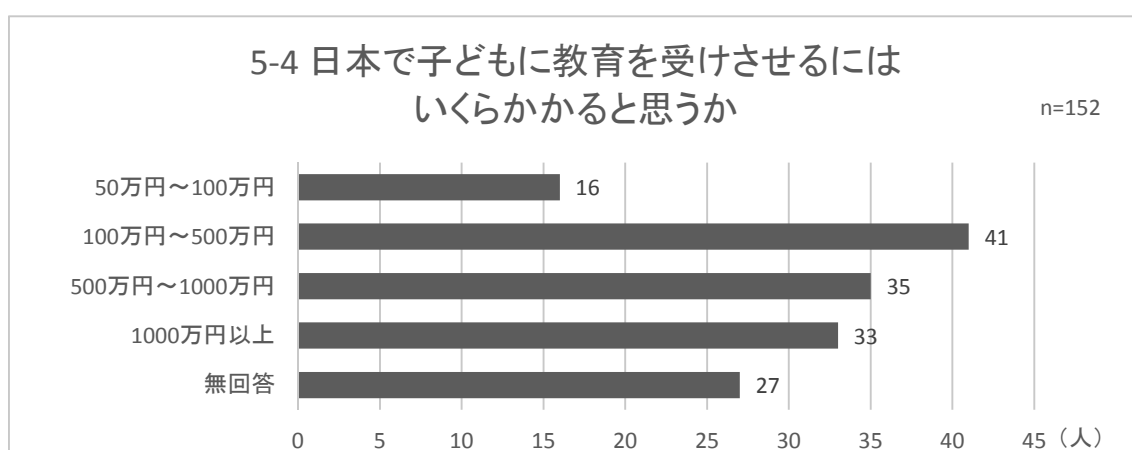


5-3. 子どもにどこまで教育を受けてほしいか

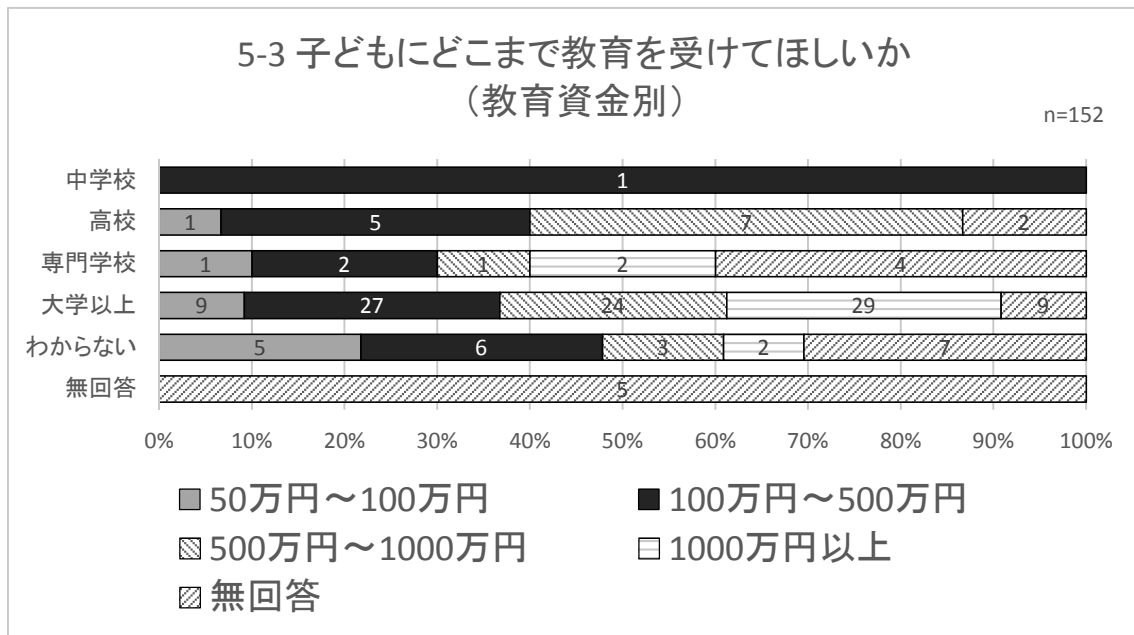


「大学以上」という回答が非常に多い。

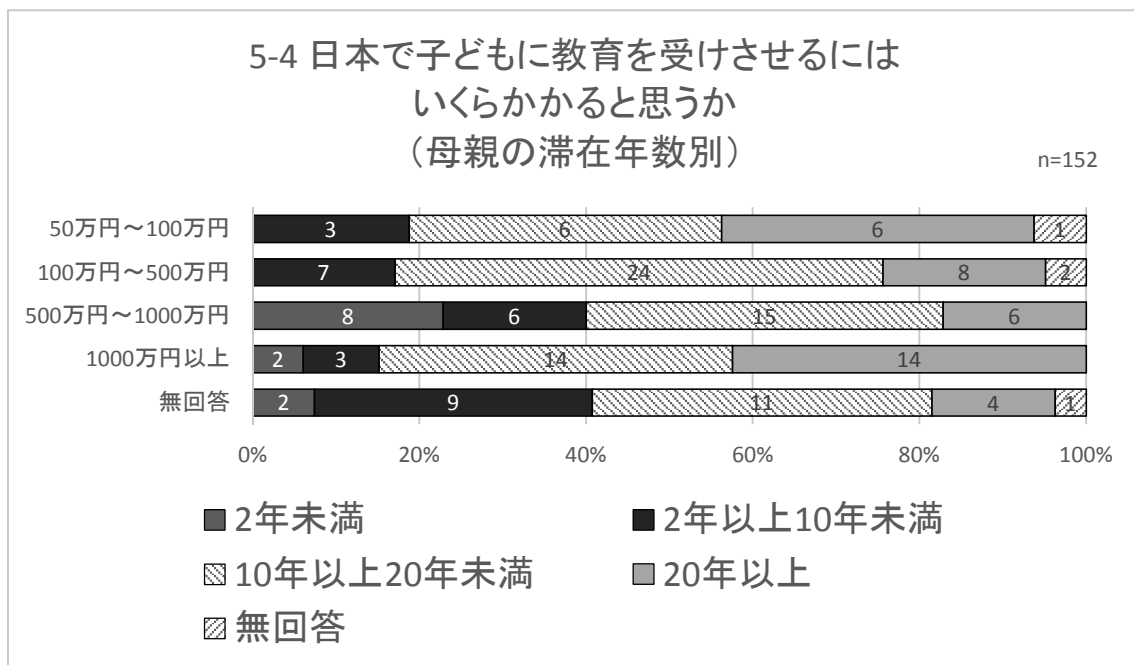
5-4. 日本での教育資金



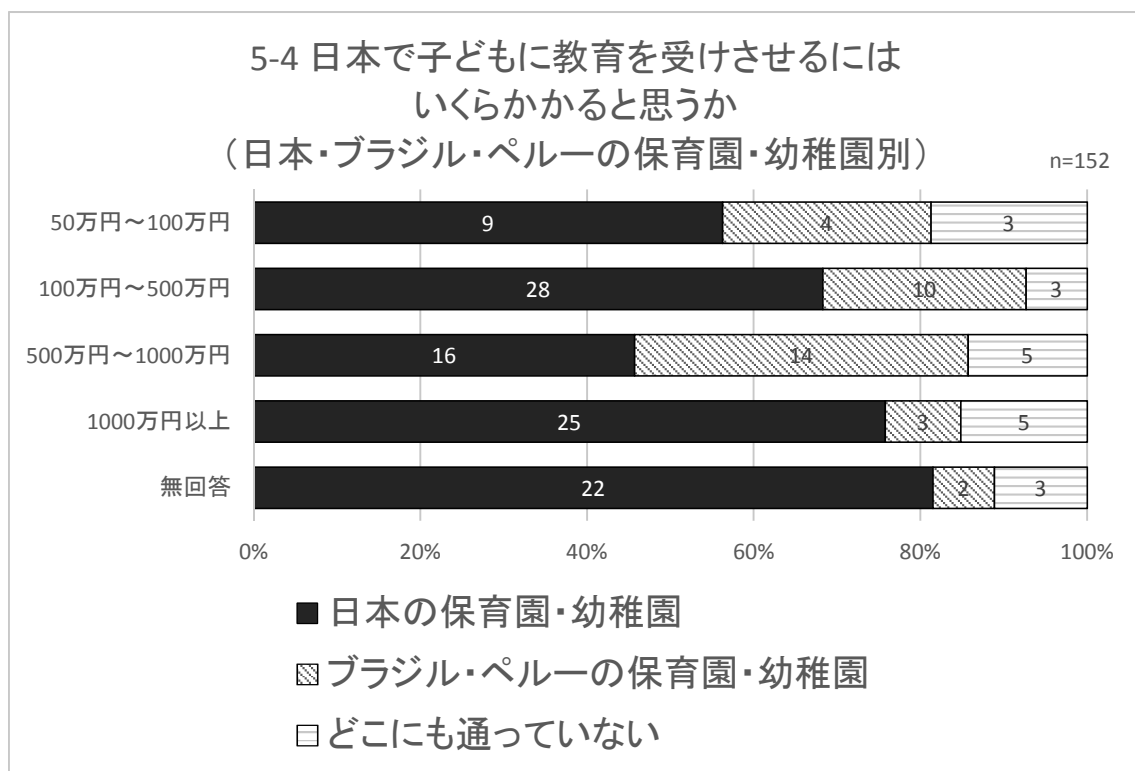
教育資金については、回答のばらつきが多い。



「大学以上」と答えた人は「1000 万円以上」という回答をした人が多かったが、「50 万円～100 万円」と答えた人もいて、全体的に教育資金についての情報を十分に得ているとは思えない。

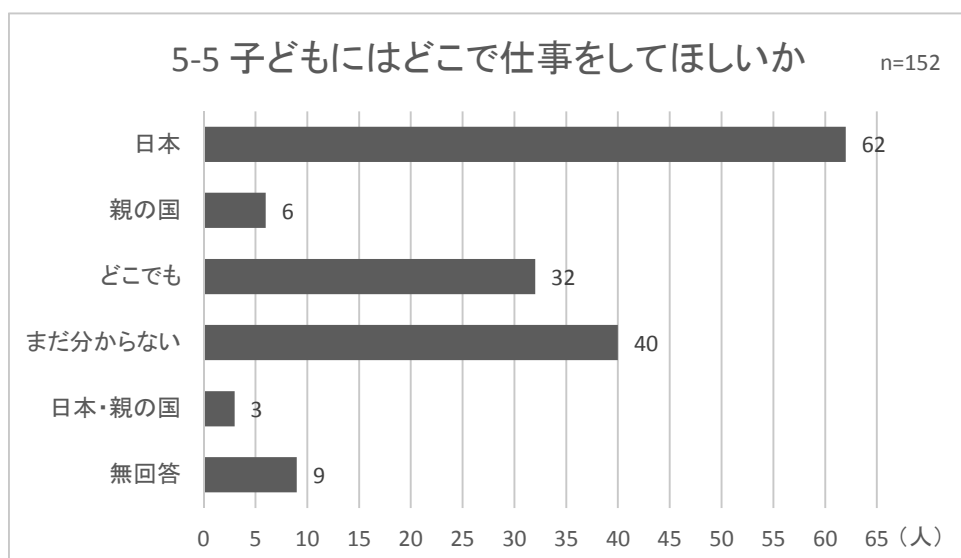


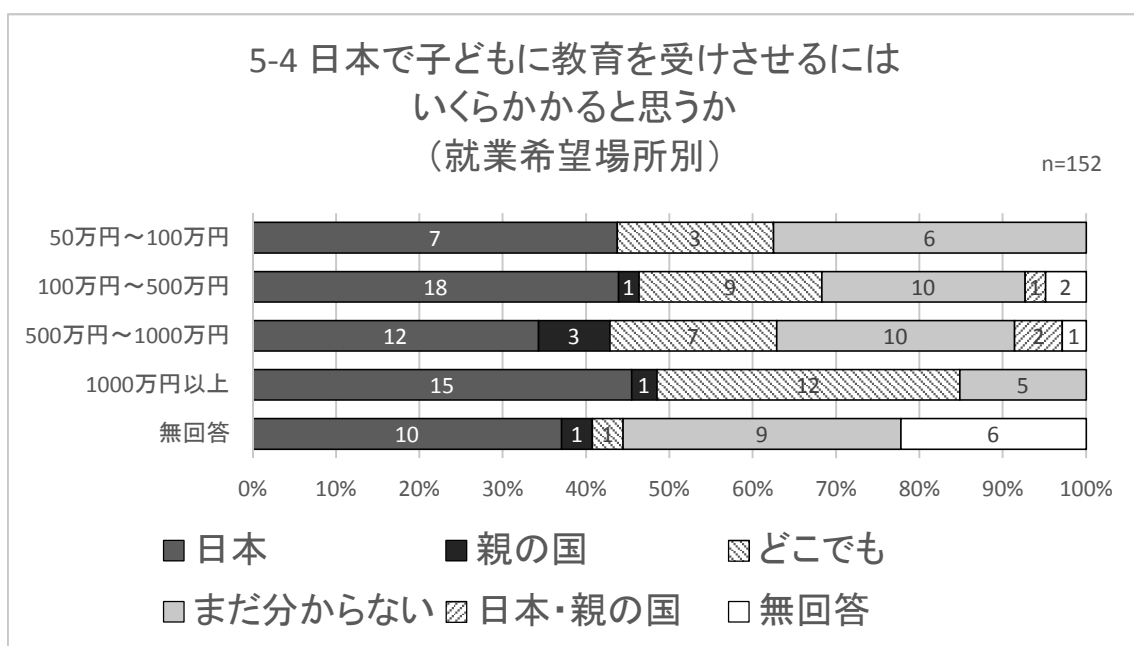
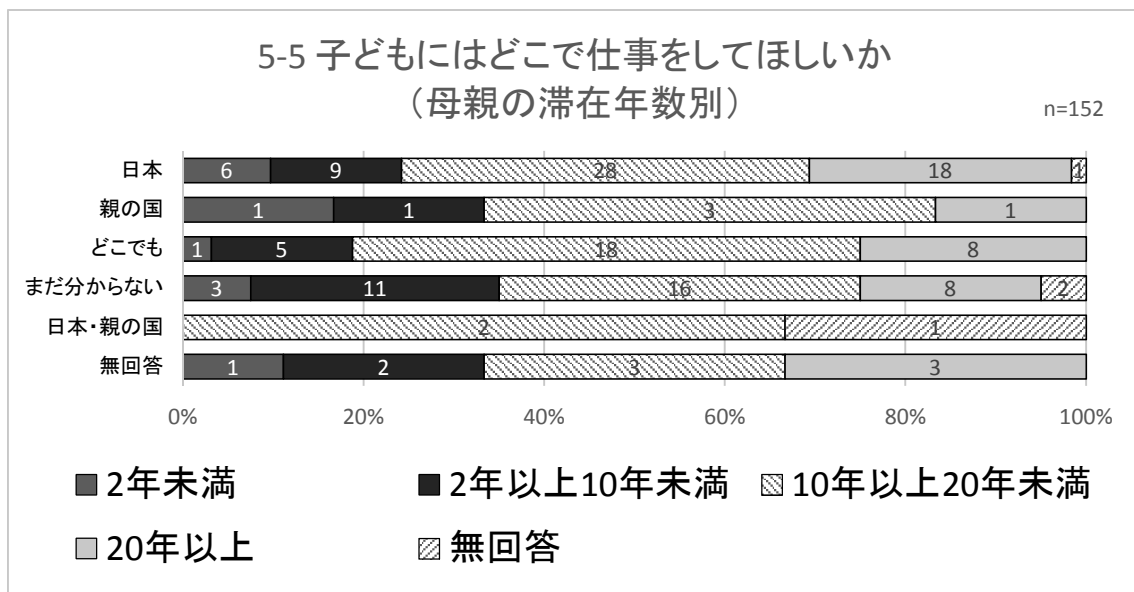
滞在年数 2 年未満の母親は、教育を受けさせる金額を高く見積もっている傾向が伺える。20 年以上の母親では、少額と高額に多く分かれている。

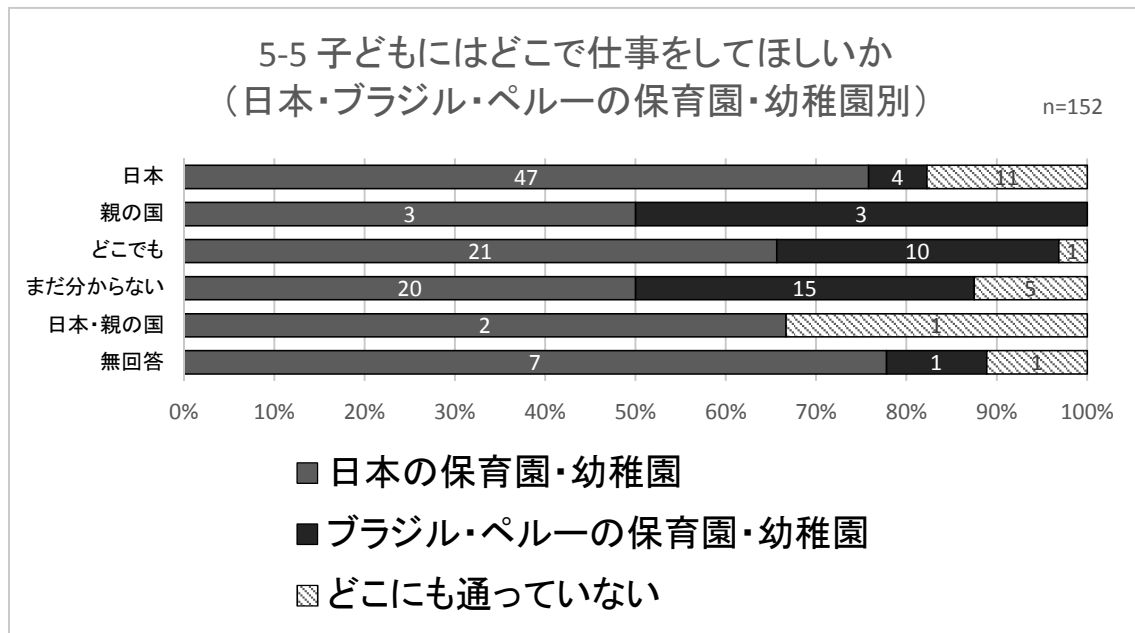


日本の保育園・幼稚園に通わせている場合、1000万円以上の金額が必要と考えている割合を一番に回答がばらついているということは、十分に情報を得ていないということだと思われる。

5-5. 子どもにはどこで仕事をしてほしいか







日本の保育園・幼稚園に子どもを通わせている親ほど子どもには日本で仕事をしてもらうことを希望している。一方、ブラジル・ペルーの保育園・幼稚園に子どもを通わせている親は、日本と母国の半分に分かれている。

6-1. 今の保育園や幼稚園に通わせていて良かったこと

【日本の保育園・幼稚園等】

評価が高いポイントとして、自分のことは自分でできるようになったという自立的なしつけに関する事、日本語ができるようになったということ、友だちができたということ、先生がよく面倒を見てくれる、など先生に関する評価、活動が良いという評価、教育が良いという評価などが挙げられる。

【ブラジル・ペルーの保育園・幼稚園等】

評価が高いポイントとして、(親の仕事の) 時間に対応してくれるという親の都合に合っているというもの、母語で対応してくれるというもの、先生がやさしい、など先生に関する評価などが挙げられる。

6-2. 保育園や幼稚園で困っていること

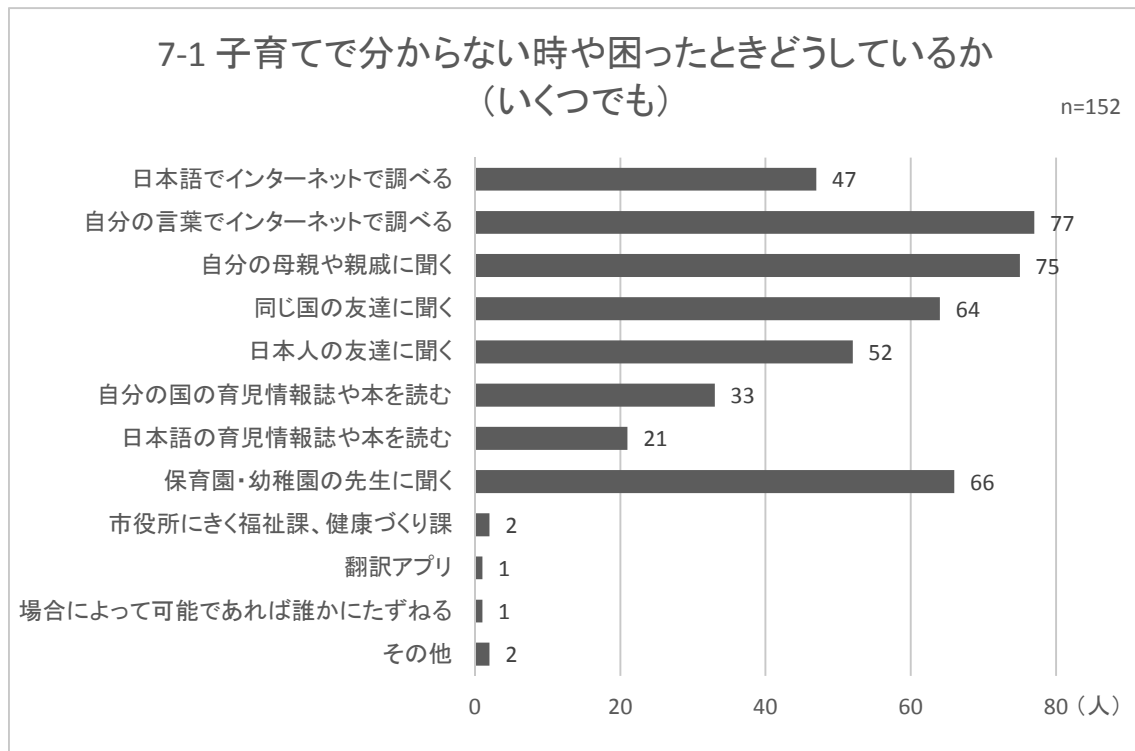
【日本の保育園・幼稚園等】

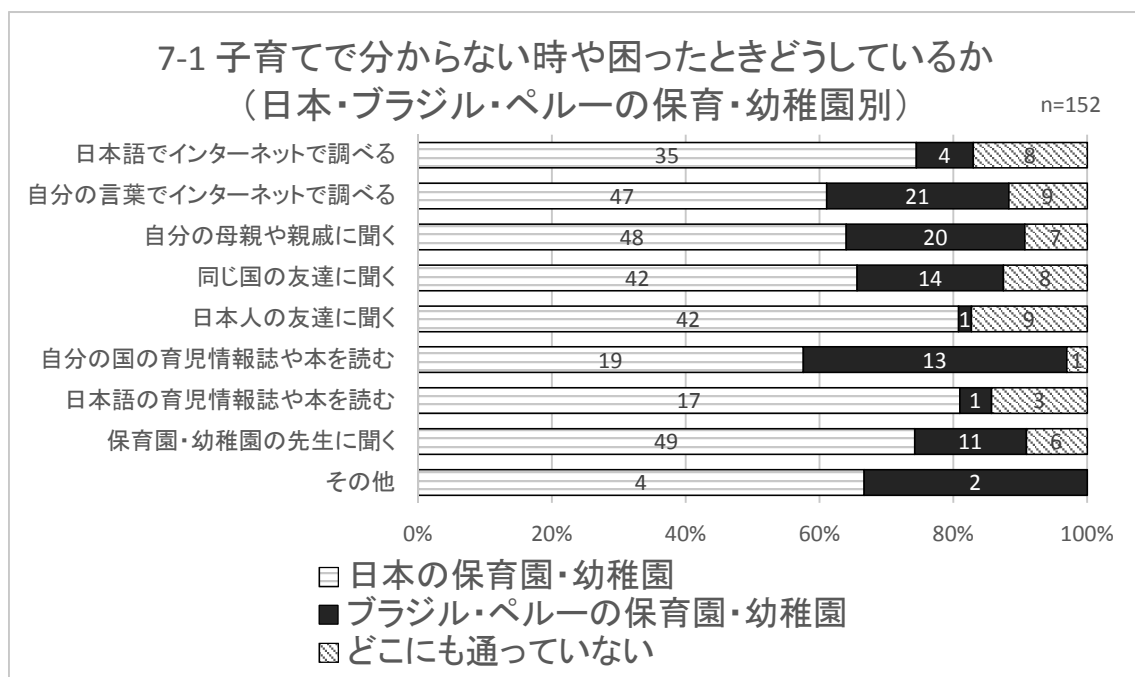
特になし、という意見が多い。子どもの日本語がまだできない、ということを挙げる人がいるが、それにもかかわらず、先生が助けてくれるという評価をしている。

【ブラジル・ペルーの保育園・幼稚園等】

特にない、という意見が多い。保育園とのコミュニケーションがないという意見もあった。

7-1. 情報収集の方法





日本の保育園・幼稚園の親は分からないときは先生に聞くということが多く、ブラジル・ペルーの保育園・幼稚園の親は自国のインターネットや本、母親や親戚・友人から聞き、先生に聞くことは少ない傾向がある。

7-2. 子どものことで、どんな情報や支援があるといいと思うか

【日本の保育園・幼稚園等】

- ・子どもだけを指導するだけではなく親の指導も必要。多くの親は、教育はどこかの機関に預けることだと思っている。親のやっていること（生き方、生活）が、将来、子どもに影響するということを自覚するように、親の指導もやってほしい
- ・日本では子ども達が生まれる時からどのように教育するのかたくさんさんの情報を私達に教えてくれる。1人で教育したり、育てたりはできないと思うが、行政の援助で良い親になるように支援してくれている
- ・行政の援助と言葉の分からない人たちのために翻訳した情報がほしい
- ・支援活動や年間の予防接種のスケジュールなど
- ・中学校・高校への進路について情報がほしい
- ・特別な子どもへの接し方のトレーニングが必要
- ・日本の学校にもっと通訳の人がいれば良い（子どもをサポートするため）
- ・母のグループ、集りが必要
- ・両親は、学校と家庭の両方において、子どもたちの活動に参加する必要があります
- ・両方の国でもっと社会的平等があれば良い。いじめをなくしてほしい

全体としては満足している人が多いが、教育・生活支援・情報面についての意見が多く見受けられる。

【ブラジル・ペルーの保育園・幼稚園等】

- ・預けた子どもの1日の行動や食事のことを知りたい。もっと子どもに優しくしてほしい
- ・子どもの成長にあわせた健康や教育の情報がほしい
- ・社会の中で行動することや教育のため必要になるものの情報があれば良い
- ・市役所のサービスがみんなにわかるようにしてほしい
- ・健康と教育についてたくさん情報があると良いです
- ・日本の保育園や幼稚園に入るのは難しいので、それについて良い指導があれば良い
- ・保育園の定員がもっと多いと良い。できれば通訳者をつけてほしい。また、すべての情報を翻訳してほしい
- ・日本の幼稚園の定員を増やしてほしい
- ・（日本とブラジル）両方の文化に特化した多くの通訳者がいれば良い
- ・保健所が家庭訪問するように、年に2回でも家庭訪問してほしい。子どもの問題は家庭にあるので、せめて5才まで、家庭をフォローする必要がある。

(3) 外国人経営の認可外託児所等の聞き取り調査

浜松市内には主にブラジル人やペルー人向けに子どもを預かる託児所が複数ある。個人宅で知人の子どもを少人数、有料で預かるという程度のものから、場所を借りて看板を掲げ、大人数を預かり、市役所に無認可保育園として届け出を出している託児所の、大きく2つに分けられると思われる。今回は、市役所に無認可保育園として届け出をしている3つの託児所に聞き取りを行った。

【託児所 A】

経営者	ブラジル人
設立時期	2009 年。 自宅で一人子どもを預かることから始まり、5 年前に人数が増えたことにより場所を借りて現在に至る。
預かっている子どもの人数	1 歳～6 歳まで約 40 人
スタッフ	主に保育をするスタッフは、ブラジル人 5 人、日本人 1 人（日本語を教えている）、送迎等をするスタッフ 3 人、
有資格者	ブラジルの教員免許を持っている人が 1 人（保育士ではない）
時間	7：00～19：00（送迎は 6：00 から 21：00 くらいまで）
保育料	35,000 円～45,000 円／月、送迎 5,000 円／月、食事 150 円／一食
食事	経営者の自宅で作り、託児所で温める
活動	外の公園に遊びに行くこともある。
健康診断	実施していない
日本語活動	2017 年 3 月から日本語を教える活動を導入。親からの要望があったことと、日本語を学ぶ環境がないために、日本の保育園に転園させる保護者がいるため。
卒園児の進路	ほとんどブラジル人学校に進学する。日本の小学校に通わせようとする保護者は 6 歳になる前に日本の保育園に転園させることが多い。
市教委の入学ガイダンス	市教委からお知らせが来るので、保護者に案内している。
保育方針	子どもにとって大切なのは教育。ただし、教育の基本は家庭で行うことなので、託児所はそれをサポートする。子どもが自立して生活できるように、着替えなどが自分でできるようにしている。 日本人も含め、英語を話す子どもなどいろいろな国の子どもを預かり、マルチカルチュラル・マルチリンガルな人を育てたい。
課題	保育料の滞納、設備を充実させたい

【託児所 B】

経営者	ブラジル人
設立時期	2008 年
預かっている 子どもの人数	0 歳～8 歳まで約 40 人
スタッフ	ブラジル人 5 人
有資格者	ブラジルの教員免許を持っている人が 2 人（保育士ではない）
時間	8：00～19：00
保育料	45,000 円／月（送迎込み）
食事	子どもたちが家からお弁当を持参
活動	ポルトガル語教室など年齢に合わせた教材でワークを行う。
健康診断	実施している
日本語活動	特に実施していないが、保護者から要望はある。
卒園児の進路	ほとんどブラジル人学校に進学する。
市教委の入学 ガイダンス	市教委がガイダンスを開催していることを知らない。
保育方針	ポルトガル語と数字の読み書きができること、子どもがスムーズに自立できるように工夫している。
課題	保育料の滞納、設備を充実させたい

【託児所 C】

経営者	ブラジル人
設立時期	2002 年 友人から頼まれて自分のアパートで子どもを預かるようになり、子どもが 10 人くらいになったので託児所として始めた。
預かっている 子どもの人数	1 歳～5 歳まで 9 人
スタッフ	ブラジル人 2 人
有資格者	なし
時間	7：00～17：30（送迎は 6：00 から 21：00 くらいまで）
保育料	35,000 円／月、送迎 10,000 円／月
食事	経営者が作っているが、今後はお弁当を持ってくるようにお願いする
活動	外に遊びに行くこともする。
健康診断	実施していない
日本語活動	実施していない

卒園児の進路	日本の小学校とブラジル人学校と半分ずつくらい進学する
市教委の入学ガイダンス	市教委がガイダンスを開催していることを知らない。
保育方針	卒園までに、ブラジルの文化を身につけ、アルファベットや数字の読み書きができるようにする。また、総合的な発達を大切にしている。子どもにとって大切なのは愛情だが、親は家でも PC をいじっていたり、子どもにタブレットを与えたりして子どもと会話していないことが多いので、託児所ではできるだけ子どもに話しかけるようにしている。
課題	認可保育園の条件に合わせることが難しい。免許のある人を雇う資金がない。



(4) 先進事例「しんえい保育園」の聞き取り調査

【基本情報】

名称：「しんえい保育園」

場所：浜松市中区泉 2 丁目 31-10

運営：有限会社伸栄総合サービス（代表取締役社長 加藤和代）

設立：平成 16（2004）年 2017 年 4 月より特定地域型保育事業の認定を取得

子どもの数：1 歳～6 歳 50 人前後

ブラジル 35 人、フィリピン 2 人、ペルー 1 人、オーストラリア 1 人、
日本 12 人（人数は入れ替わりもあるのでおおよその人数）

職員：園長（日本人）1 人、保育士（日本人）8 人、ポルトガル語通訳 3 人、
ポルトガル語教員 1 人 調理員 3 人 他

特徴：①小学校入学までに読み書き教育を実施

②園バスの無料送迎あり

③日本語、ポルトガル語による対応が可能

④職員の数が多い

設立経緯：(有)伸栄総合サービス・加藤和代社長が、自身の子育ての経験から保護者に安心して働いてもらうために設立。当初から主にブラジル人の子どもたちを中心に受け入れることを想定してポルトガル語の通訳を配置し、日本社会での子育て支援を行う。

1. 日本の小学校にスムーズに上がるための 取り組み（子どもに対して）

・毎日、日本語のひらがなとカタカナの練習をする。卒園までに最低限、50 音のひらがな・カタカナが読めるようにする。次のステップとして、「自分で本を読める」、その次として「文字が書ける」ことを目指す。特に、日本語の文章の読解力を上げる。数式の「 $1+1=2$ 」は理解ができて、文章題で「リンゴが一つありました」となると理解できなくなってしまう子が多いため。

・早期教育として取り組んでいるのではない。日本の保育園・幼稚園の最近の傾向として、文字を教え込む早期教育はむしろ積極的に行わないが、しんえい保育園では、外国人の子どもが日本で生活するために必要な力をつけるために取り組んでいる。日本人の子どもは



生活の中で日本語を身に付けていくが、外国人の子どもはそれが難しいことも多いので、小学校でのスタートラインを日本人の子どもたちに揃えるために行っている。

- ・日本語を教えるに当たり、5,6年前から横峯方式を導入している。それまでも日本語には取り組んでいたが、横峯方式は「あ」から教えるのではなく、書き順が簡単なカタカナなどから教えるところが、外国人の子どもに適している。また、外国人の子どもの名前はカタカナで書くことが多いので、早く自分の名前を読んで書けるようになる。
- ・効果として、日本語の理解力が向上した。外に散歩に出たとき、看板を読むようになった。看板の文字が読めると、例えば「うなぎ」って何？と言葉の意味に興味を持つ。それを保育士が説明することで日本語や日本社会に対する興味がふくらんでいくことになる。
- ・その他の効果として卒園生の様子を見に小学校の参観会を保育士が見に行くが、きちんと先生の話聞いて、手をあげて答えることができる。また、それは読み書きができる、ということだけではなく、45分間座って集団の中で集中して話を聞くことができる、ということでもある。
- ・英語も1週間に1回、外部講師に来てもらい実施している。これも、早期教育というのではなく、一つは、フィリピン人の子どもたちは英語がわかるということ、そして、ブラジル人の子どもたちは、日本の子どもたちが誰でも知っている「レッド」「ブルー」といったカタカナ英語を知らないことが多いので、それにふれる機会をつくり語彙を増やすという意味がある。
- ・卒園がゴールではなく、日本の社会で生きていくことができるようになることを目指している。リーマンショックを乗り越えて日本に残った外国人の子どもたちが日本の中でうまく生きていけるように、小学校に上がる前に自信をつけさせ、将来の夢を描くことができるようにすることが目的である。

2. 日本の小学校へスムーズに上がるための取り組み（親に対して）

- ・外国人の親の保育に対する感覚も日本とは異なるので、理解をしてもらうように繰り返し説明してきた。理解をしてもらうのに5年くらいかかっている。
- ・例えば、病気に対する意識も違う。「おたふく」「水疱瘡」などの伝染病は日本では保育園でうつるのはある程度仕方がない、むしろ小さいうちにかかってしまった方がいい、という考え方もあるが、ブラジル人の親は、「保育園でうつされた！」と怒鳴り込んできることがある。また、じんましんはうつらないのに、うつされたとクレームを出されたこともある。今は、親の健康教育講座を浜松医科大学の学生さんが行ってくれて、衣服による体温調節の方法なども含め、基礎的な情報や考え方を伝えることも試みとして取り組んでいる。
- ・ブラジル人の子どもは、4歳でもまだおむつをしていたり、哺乳瓶から飲んでいたり、おしゃぶりをしていたりするが、保育園に入って1年もたつと自分のことは何でも自分でできるようになるなど自立が進む。親にいくら説明するよりも、子どものそのような成長を

親に実際に見てもらうことが一番理解が早い。

- ・異国で子どもを預けて働くということはそれだけでも不安。その不安を取り除くためにはどうしたらいいか、と考えて保育を行っている。
- ・ブラジル人の親が日本人は冷たい、と言っていたことを聞いたことがあるので、ブラジル人の親には一歩踏み込んで関わっていく。
- ・親に日本での子育てや生活の価値観を伝える機会として、年間3つの行事である「運動会」「発表会」「参観会」を念頭において取り組んでいる。そのときは必ず親に出席してもらって、保育園の考え方などを伝えるようにしている。普段は送迎を行っているので、お迎え時に親と保育士がゆっくり話す時間がないが、参観会や行事の後に懇談会を設けて担任と親とがじっくり話をできるようにしている。
- ・卒園式には、一つ下の学年の子どもと親にも出席してもらう。その意味は、「1年後のことを考えてもらう」ということ。親には常に先のことを考えてもらうように話をしている。例えば、貯金して次につなげるように、という話もする。
- ・ブラジル人の親同士で、保育園のやり方などについて情報交換しており、新米ママの不安や不満に先輩ママが説明してくれたりしているので、今は園が苦勞して説明をすることはほとんどなくなっている。
- ・様々な大学機関などが研究で園に入って、結果をフィードバックしてくれている。例えば、語彙調査をして、子どもたちが「高い」「太い」も含めて全て「大きい」という表現一つで済ましてしまっているということを聞いたので、それ以来、保育士が言葉で説明するときに気をつけている。分かりやすいように全て「Grande（大きい）」という説明で済ませてしまってきたものを、「高い」「太い」などの言葉で文脈に応じて説明をするようになった。
- ・「時間を守る」ということについては、最初はうまくいかなかった。例えば、親と意見交換や交流の時間をとる目的でカレーパーティーをやろうと思い、「10時～12時」と案内に書いたら、一番最初に来た親は11時で、全てそろったのは11時半くらいだった。親と交流するどころか、文字通りカレーだけ食べて終わってしまった。「10時から12時の間に来ればいい、カレーを食べに来ればいい」という理解だったようだ。そこで、「開始時間10時、集合時間9時30分、そして何をやるのか、ということを書くようにした。
- ・運動会や発表会についても、「席とり」をしてもらうことで、次第に早めに来るようになった。日本の親が早くから来て席取りをしているのを見て、来年は早く来て席を取るようになる。つまり、親は親を見て育つ、子どもは子どもを見て育つ。
- ・親に対して、強く注意をする、というより、1、2年かけて親に時間を守らないとどうなるか、ということを経験してもらって、ゆっくり学んでもらう、というやり方をとっている。
- ・欠席の連絡もしない親はいるが、何度も言い続ける。
- ・連絡帳は母語に翻訳をしている。年齢の高いクラスの子どもは、みんな共通で何をやったか、ということ日本人保育士が書き、それをブラジル人スタッフが翻訳して、みんなに

コピーを配っている。年齢の低い子どもには全て一人ひとり保育士が書くので、翻訳も全て一つひとつ翻訳している。

- 「お弁当講座」は最初はニーズがあってやっていたが、最近はニーズがあまりなくなり、やらなくなった。お弁当講座をやってうまくつくれるようになると、子どもが喜ぶ、子どもが写真を取ってくれというので保育園の **Facebook** で写真をアップする、親はそれを見て、刺激を受けてさらにがんばるようになり、まだ作っていない親もそれをみてまねる、という良い循環ができるようになった。

(5) 浜松市内の小学校教員への聞き取り調査

主に、2017年8月2日(水)「教職員のための多文化共生講座」(当協会主催)に参加した浜松市内の小学校の教員の一部に、外国人児童の受入れ経験について聞き取りを行った。聞き取りに応じていただいた教員の外国人の子どもへの対応経験の多少については個人差があり、また、あくまでも教員の個人的な経験や意見であることを差し引いてみる必要はあるが、以下のとおり共通の意見が見られた。

① 日本の保育施設に通っていなかった外国人の子どもは通っていた子どもとどのような違いがあるか。

- ・日本の保育施設に通っていなかった外国人の子どもは(以下同様)、プールのときに着替えが自分でできないなど、自立した生活態度が身に付いていない場合がある。
- ・運動会の演技の練習を集団で行うことをいやがる子どもがいるが、集団行動に慣れていないからなのか、個人的な理由があるのか、判断できない。
- ・日本語が分からないからか、他の日本人の子どもとのコミュニケーションがうまくとれない。
- ・周りを見て周りの行動に合わせて行うことができない。例えば、給食をみんなでそろってから食べ始めるのではなく、自分だけどんどん食べてしまうなど、自分のペースで行動する。
- ・外国人の託児所から進学してきた子どもが学校生活になかなかなじまず、集団行動が苦手な場合、言葉の問題なのか発達の問題なのか判断が難しい。特に、日本の保育施設に通っていなかった場合には、日本の専門家のチェックを受ける機会がなく、幼児期に発達障がい気づかず小学校に上がっている可能性もあるので、判断が難しい。
- ・日本の保育施設に通っていた外国人の子どもでも、日本語の会話は問題なくできるが、ひらがなの読み書きが全くできない、本読みなどはすらすらできるが、実は読んでいるのではなく暗唱しているだけで意味があまりよく分かっていないなど、日本語に課題がある場合がある。

②外国人の子どもや親について課題だと感じる事

- ・外国人の親が小学校は勉強をするところだと理解していないことがある。単に子どもを預ける所の延長として考えており、簡単なことですぐ休ませたりする。
- ・外国人の親で日本語も分かるし日本の保育施設に子どもも通っていたということで、外国人向けの丁寧な説明は必要がないと本人から言われたが、細かいことがよく分かっておらず、遠足の用意ができずに欠席させてしまうことがあった。親向けに翻訳した資料を渡しても、親の母語の力がどれだけあるか不安な場合もある。
- ・以前は、親の出身国や言語がブラジルやベトナムなどはっきりしていて、ブラジル人やベトナム人の思考パターンなどが大体あり、また、翻訳した資料を渡せばなんとか解決する

こともあったが、今は、親が日本育ちで母語もあいまいな場合もあり、育ちや考え方も人によって様々でどのように対処すればいいか分からないことも出てきていると感じている。

③スムーズに日本の小学校になじむために、どのような仕組みが必要だと思うか

- ・小学校の生活リズムや学校のルールなどを入学する前か入学してすぐに体験してもらう期間が一定期間あるとよい。親に対しても学校の準備などについて慣れてもらおうとよい。教育委員会で行うオリエンテーションだけでは理解できていない親がいる。
- ・入学前に外国人の子どもの日本語の能力をある程度正確にチェックしてほしい。子どもの日本語力によってサポーターの手配を考えるのでとても重要。
- ・外国人の託児所などと小学校の連携を密にすることが必要。子どもの就学前の状況について申し送りが丁寧にあると対応がしやすい。
- ・日本人の子どもと外国人の託児所の子どもが交流する機会があると、外国人の親も日本の子育てについて学ぶ機会となるのではないか。

(6) 他地域先進事例「れいんぼ一保育園」の聞き取り調査

【基本情報】

名称：「れいんぼ一保育園」

場所：埼玉県児玉郡上里町大字七本木 3706-22

運営：学校法人ティー・エス学園（理事長 齋藤俊男）

設立：20 年ほど前から無認可の託児所として開始。 2016 年 10 月より認可保育園。

子どもの数：0 歳～6 歳 36 人

ブラジル 30 人、フィリピン 1 人、ペルー 1 人、バングラデシュ 1 人、
日本 3 人（人数は入れ替わりもあるのでおおよその人数）

職員：園長（ブラジル人）1 人、保育士（日本人）6 人、ポルトガル語通訳 2 人、他

特徴：①多言語スタッフの配置（保育士資格保有の日本人スタッフ、英語・ポルトガル語のバイリンガル保育補助員）

②バスによる送迎・全天候型運動スペース

③農作業の導入により自然のことを学ぶ

設立経緯：㈱ティー・エスを設立した齋藤俊男氏が、自社の派遣社員のための託児所として開設したことが始まり。

1. ブラジル人経営者による特徴について

- ・ブラジル人経営の託児所はバスによる送迎があるということが日本の保育園にないメリットとしてよく言われるが、れいんぼ一保育園では要望があれば行すが、今のところ要望がないので行っていない。
- ・ブラジル人経営の託児所は親の仕事の都合に応じて、朝早くから夜遅くまで、また休日の残業にも対応してくれる場合もあるが、れいんぼ一保育園では開園時間は 7:15～18:30（延長して 19:00 まで）であり、今のところ特に延長保育の要望はない。
- ・ブラジル人経営の託児所は病気の子どもも預かってくれる場合もあると聞くが、れいんぼ一保育園では責任を持てないので行っていない。
- ・れいんぼ一保育園への親の評判としては、ポルトガル語が通じるので安心して子どもを預けられる、しかも認可保育園になり保育料が安い、ということが挙げられている。



2. その他保育園の活動内容について

- ・日本語についてはひらがなの読み書きは卒園までにできるようになるが、カタカナ・漢字・計算などは特に取り組んでいない。内容については保育園としての方針で決めて行っているのではなく、担当の先生に任せている。
- ・英語を週 2 回、外部の先生に来てもらい教えている。
- ・給食のメニューは基本的には日本食（栄養士 2 名は日本人、調理補助 1 名はブラジル人）だが、ブラジルのフェジンは常備している。
- ・年間を通して、行事はこれから計画していくが、母の日、父の日、七夕、フェスタジュニーナ、ハロウィーンなどを行っている。運動会も今後計画している。

3. 卒園後の進路について

- ・今年の卒園児 6 人のうち 4 人が日本の小学校へ、2 人がブラジルへ帰国予定なので同じ系列のティーエス学園へ進学した。
- ・日本の小学校に進学した子どもは放課後にティーエス学園でポルトガル語の勉強をしている子どももいる。

4. 同系列のティーエス学園について

- ・小学校から高校までの子どもが学んでいる。
- ・日本の学校に通いながら、放課後にポルトガル語の補習校として通っている子どもも多い。
- ・高等部を卒業後、提携している日本の大学へ進学する生徒を 2 人選抜し、毎年奨学金を（株）ティーエスが支払うというシステムを始めた。
- ・将来的にはインターナショナルスクールにして、英語・日本語・ポルトガル語を学び、世界で生きていくことのできる子どもを輩出するような学校を目指している。

(7) その他関係機関・他地域事例の聞き取り調査

その他関係機関・他地域事例として、以下に聞き取りを行った。

① 浜松市内外国人学校内の幼稚部

エスコラ・アレグリア・デ・サベール (EAS) およびムンド・デ・アレグリアの 2 校について聞き取りを行った。この 2 校については子どもを預かることなく幼児教育が目的であり、ブラジルもしくはペルーの幼児教育のカリキュラムに基づいて行っているとのことであった。ポルトガル語等の母語の指導は幼児用のテキストを使用しているが、日本語教育は行っていない。ほとんどの子どもがそのままそれぞれの学校の小学部へ進学する。

② 愛知県「子育て外国人の日本語習得モデル事業」実施団体

- ・ NPO 法人希望の光およびブラジル人学校エスコラ・ネクター (愛知県豊田市)
- ・ NPO 法人トルシーダ (愛知県豊田市)

事業の詳細については、愛知県による平成 28 年度「子育て外国人の日本語習得モデル事業」結果報告に掲載がある。

今回は、今後の浜松市における対応・事業展開を考える参考として聞き取りを行った。

2. 外国人保護者向け子育て支援セミナーの開催

概要：発達障がいを持つ子どもの親向けの研修「ペアレント・トレーニング」の内容に沿って、子育てのコツを伝えるとともに、子育てで困ったときの相談先の情報について提供する。「ペアレント・トレーニング」は子育て全般に役に立つスキルの提供につながることで、外国人経営者の託児所では定期的な健康診断がないこともあり発達障がいの発見が遅れるという課題があると聞いているため、保護者にとってよい情報提供の機会とする。

講師：PAfi（ペアレント・トレーニング指導者グループ）

＊ポルトガル語でペアレント・トレーニング研修を実施する在住ブラジル人による自主グループ。当協会が平成 26（2014）年度より、「在住外国人のためのメンタルヘルス相談事業」（浜松市精神保健福祉センター委託事業）の一環としてペアレント・トレーニング指導者養成研修を行い、育成してきた。当初は 10 人で始まったが、2017 年度現在、メンバーは 4 人となっている。

日時：2017 年 5 月 28 日（日）10:00～12:00

会場：浜松市男女共同参画センター（あいホール）

参加者：6 人（ブラジル人保護者）

効果：初めてペアレント・トレーニングに触れる保護者ばかりで、子育ての考え方のヒントになると好評であった。受身の講義ではなく、ワークショップや意見交換を含めることで、身になる情報となりえる。今後、日本の子育て情報が入りにくい外国人保護者向けに積極的に機会を作っていく意義はあると思われる。

IV 参考資料

○日本語「語彙調査用紙（進学例就学ガイダンス用）」

○親の意識アンケート調査票

語彙調査用紙（新学齢就学ガイダンス用）

学校名： _____ 実施年月日： _____ 記録者： _____
 氏名： _____ 国籍： _____ 性別： _____
 就学前状況： 保育園／幼稚園 ・ 託児所 ・ 自宅 ・ その他

	語彙	質問	正	誤	備考
1	名前	名前は何ですか。			
2	年齢	何歳ですか。			
3	2(数える)	いくつありますか。			
4	4(数える)	いくつありますか。			
5	7(数える)	いくつありますか。			
6	赤	何色ですか。			
7	青	何色ですか。			
8	緑	何色ですか。			
9	ごはん	これは何ですか。			
10	りんご	これは何ですか。			
11	すいか	これは何ですか。			
12	いぬ	これは何ですか。			
13	ねこ	これは何ですか。			
14	うし	これは何ですか。			
15	鉛筆	これは何ですか。			※全くできない場合はここで終わり
16	はさみ	これは何ですか。			
17	ふでばこ	これは何ですか。			
18	つくえ	これは何ですか。			
19	かさ	これは何ですか。			
20	くつ	これは何ですか。			
21	ひこうき	これは何ですか。			
22	くるま(自動車)	これは何ですか。			
23	船	これは何ですか。			
24	食べる	何をしていますか。			
25	そうじする	何をしていますか。			
26	おかあさん	これはお父さんです。これはだれですか、？			
27	大きい	このりんごは小さいです。これはどんなりんごですか、？			
28	長い	この鉛筆は短いです。これはどんな鉛筆ですか、？			
29	一番後ろの子どもを指す	一番後ろの子はどれですか？(指でさしてください。)			
30	真ん中の風船を指す	真ん中の風船はどれですか？(指でさしてください。)			
合計					

A:25点以上

B:15点以上

C:14点以下

子どもの様子：

外国にルーツを持つ就学前の子ども及び子育て支援事業

アンケートのお願い

外国で子育てをすることはとても大変なことだと思います。このアンケートは、浜松国際交流協会（HICE）が浜松市から頼まれて行います。目的は、皆さんの子育ての様子や悩み、希望を聞いて、浜松市でどのように皆さんの子育てのお手伝いができるかを考えることです。アンケートへのご協力をお願いします。

なお、このアンケートには名前を書く必要はありません。また、子どもが学校へ行く手続きとは関係がありませんので、安心して答えてください。

2017年8月

公益財団法人浜松国際交流協会（HICE）
電話（053）458-2170

1. 基本情報

- 1) 子どもの国籍は何ですか。
()
- 2) 親の国籍は何ですか。
お母さん() お父さん()
- 3) お母さんは日本に来てどのくらいですか
() 年
- 4) 子どもはどこで生まれましたか。
日本 親の国() それ以外()
- 5) 子どもは保育園や幼稚園、託児所に通っていますか？
() 日本の保育園・幼稚園に通っている → (6) へ
() ブラジル・ペルーの保育園・幼稚園に通っている。→ (6) へ
() どこにも通っていない → (7) へ
- 6) 「日本の保育園・幼稚園、ブラジル・ペルーの保育園・幼稚園に通っている」の人
①今通っている保育園や幼稚園の名前を教えてください。()
②なぜ、そこに通わせていますか？いくつでも(○)をつけてください。
() 家に近いから
() 仕事の時間にあっているから
() 送り迎えをしてくれるから
() お金が安いから

- () 日本語を勉強してほしいから
() 親のわかる言葉（ポルトガル語、スペイン語）で対応してくれるから
() 保育園や幼稚園のやり方が良かったから
() その他（ ）

7) 「どこにも通っていない」人
→なぜ、保育園や幼稚園に通わせていないのですか？いくつでも（○）をつけてください。

- () 自分で育てたいから
() お金が払えないから
() どこに通わせていいかわからない、どうやって申し込むのかわからないから。
() あずかってくれる人がいるから
() その他（ ）

2. 親の日常生活

1) お母さんは仕事をしていますか？

- () はい () いいえ

→「はい」の人

①何時に家から出ますか？ ()

②何時に戻りますか？ ()

2) お父さんは仕事をしていますか？

- () はい () いいえ

→「はい」の人

①何時に家から出ますか？ ()

②何時に戻りますか？ ()

3. ことば

1) お母さんが一番得意な言葉は何語ですか？

- ()

2) 子どもには何語ではなしかけていますか？

お母さん () お父さん ()

3) 子どもには、親が一番得意な言葉（母語）で話しかけることが大切だということを
知っていますか？

- () 知っている () 知らなかった

4) 子どもには日本語をどのくらいできるようになってほしいですか。

- () 日本人と同じようにできるようになってほしい。
() 日常会話ができれば良い。
() 読み書きも含め、基礎的なことはできてほしい。

5) 子どもには親の言葉（母語）をどのくらいできるようになってほしいですか

- ☐ 母語で勉強もして、完璧にできるようになってほしい。
☐ 日常会話ができればよい。
☐ 読み書きも含め、基礎的なことはできてほしい。

4. 子どものこと

1) 子どもが小学校にいくときに、心配なことはありますか？

いくつでも（○）をつけてください。

- ☐ 日本語ができない
☐ 母語ができない
☐ 勉強についていけるかどうか、心配。
☐ 発達が遅れているかもしれない
☐ いじめられないか、心配。
☐ みんなに合わせて行動できるか、心配。
☐ その他（ ）

2) 今、子どもは何時に寝て、何時に起きますか？

寝る時間（ ） 起きる時間（ ） 特に決まっていない

5. 子どもの将来

1) 小学校はどこに通わせますか？

- ☐ 日本の小学校 ☐ 外国人学校

2) それはなぜですか？いくつでも（○）をつけてください。

- ☐ これから日本でくらしていくので
☐ 自分の国に帰る予定なので
☐ 日本の教育は質がいいと思うので
☐ 自分の国の教育は質がいいと思うので

3) 子どもにはどこまで教育を受けてほしいですか？

- ☐ 中学校 ☐ 高校 ☐ 専門学校 ☐ 大学以上 ☐ 分からない

4) 日本で子どもに教育を受けさせるためには、いくらくらいかかるとおもいますか？

- ☐ 50万円～100万円 ☐ 100万円～500万円
☐ 500万円～1000万円 ☐ 1000万円以上

5) 子どもにはどこで仕事をしてほしいですか？

- ☐ 日本 ☐ 親の国 ☐ どこでも ☐ まだ分からない

6. 保育園・幼稚園への評価

1) 今の保育園や幼稚園に通っていて良かったことを教えてください。

2) 保育園や幼稚園で困っていることがあったら教えてください。

7. 情報収集の方法

1) 子育てで分からないことや困ったとき、どうしますか？

いくつでも（○）をつけてください。

- ☐ 日本語でインターネットで調べる
- ☐ 自分の言葉でインターネットで調べる
- ☐ 自分の母親や親せきに聞く
- ☐ 同じ国の友だちに聞く
- ☐ 日本人の友だちに聞く
- ☐ 自分の国の育児情報誌や本を読む
- ☐ 日本語の育児情報誌や本を読む
- ☐ 保育園・幼稚園の先生に聞く
- ☐ その他（ ）

2) 子どものことで、どんな情報や支援があるといいと思いますか。自由に書いてください。

ご協力、ありがとうございました。



「外国にルーツを持つ就学前の子どもと保護者の子育て支援に関わる調査」報告書

2018年2月発行

浜松市企画調整部国際課

受託：公益財団法人浜松国際交流協会（HICE）

〒430-0916

静岡県浜松市中区早馬町2-1 クリエイト浜松4階

TEL (053) 458-2170

*当調査は、一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）の助成金を活用し、実施しました。

